地質学雑誌　第120巻　第10号（通巻1429号）付録　平成26年10月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 *News*

Vol.17 No.10 October 2014

THE GEOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN 1893

規則改正のお知らせ

先の理事会において，会費滞納を伴う退会および除籍に関する運営規則（第２章 会員，会員名簿，入会，退会）と地質学雑誌投稿編集出版規則の一部改正が承認されました（2014年９月12日改正．本紙p.19議事録参照）．運営規則の改正箇所を抜粋してお知らせ致します．地質学雑誌投稿編集出版規則については，10月号雑誌巻末をご参照ください．

規則の全文は，下記学会ホームページからご覧いただけます．

・運営規則

http://www.geosociety.jp/outline/content0074.html

・地質学雑誌投稿編集出版規則

http://www.geosociety.jp/publication/content0002.html#touko

【運営規則改正箇所】

第２章 会員，会員名簿，入会，退会

（入会・退会）

第５条６項（追加）

退会は，書面にて退会届（書式任意，電磁的方法，郵送いずれも可）を提出する．未納会費がある場合には，これを支払わなければならない．

（会　費）

第７条４項（改正）

（改正前）会費を当該年度中に支払わなかった会員は，正当な理由がないと理事会が判断したときは，会員の資格を喪失し除籍となる．

（改正後）会費支払いの督促を受けつつ，正当な理由なく，かつ，退会届を提出せぬままに会費を滞納した会員は，滞納4年度目をもって，理事会の議決により会員の資格を喪失させ除籍とする．

学会ホームページ会員情報システム一時利用停止のお知らせ

現在進行中の，地質学会ホームページのシステムリニューアル作業に伴い，会員情報システムが一時ご利用頂けません．利用停止期間は，下記の通りです．

システム利用停止期間：2014年11月17日（月）～19日（水）

（終了予定は，作業状況によって前後する場合があります）

停止期間中は，**住所変更，専門部会登録等の会員情報の更新はできません**（会員ページへのログインは可能です）．会員情報の更新は，システム停止期間後に行って頂くか，学会事務局まで直接メール等でご連絡をお願い致します．

会員の皆さまにはご迷惑をおかけいたしますが，ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます．

（日本地質学会広報委員会）

日本地質学会*News*

Vol.17 No.10 October 2014

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル　６Ｆ
編集委員長　坂口有人
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

案内 ……2
国際第四紀学連合第19回大会（INQUA2015）/平成27年度共同主催国際会議「北極科学サミット週間2015」発表募集

公募 ……2
大阪教育大学教育学部自然研究講座教員公募/福島大学共生システム理工学類教員公募/鳥取県職員（学芸員：地学担当，生物担当）募集/東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻教員公募

各賞・助成 ……4
2015年度日本地球惑星科学連合フェロー候補者推薦募集/地球惑星科学振興西田賞推薦募集/山田科学振興財団2015年度研究援助候補推薦/第42回「環境賞」募集

紹介 ……5
サイエンス・パレット　科学革命　ローレンス・M・プリンチペ著　菅谷　暁・山田俊弘　訳（矢島道子）

学協会・研究会報告 ……7
IGCP 608「白亜紀のアジア－西太平洋地域の生態系システムと環境変動」第２回国際シンポジウム（東京・早稲田大学）（安藤寿男・安藤卓人）/国際ゴンドワナ研究連合（IAGR）2014年総会及び第11回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム参加報告（吉田　勝ほか）

地学教育のページ ……11
国際地学オリンピック：世界トップに！

Island Arc 日本語要旨；Vol.23 Issue 3（September） ……12

御嶽山2014年噴火（速報） ……13

院生コーナー ……14
スロバキアの夏―上部三畳系石灰岩の調査報告―（山下大輔・白水秀子）

支部コーナー ……16
関東支部：清澄フィールドキャンプ実施報告

2015年度の会費払込について ……17
2015年度学部学生割引・院生割引会費の受付開始

学会記事 ……19
2014年度臨時総会議事録/2014年度第２回理事会議事録/2014年度第２回，３回，４回執行理事会議事録

訃報 ……24

CALENDAR ……25

出版物在庫案内 ……26

巻末　預金口座振替依頼書

表紙：御嶽山2014年噴火（速報）

（写真提供　アジア航測（株），解説　及川輝樹）

詳しくは，本紙p.13参照

2015年度各賞候補者募集中

応募締切：2014年12月１日（月）必着

詳しくは，ニュース誌９月号または
学会HPをご覧下さい．

第６回惑星地球フォトコンテスト

応募締切：2015年２月中旬

まもなく応募受付開始です！
http://www.photo.geosociety.jp/

訂正

ニュース誌９月号（vol. 17, No. 9）の８ページ「お知らせ：日本ジオパークネットワーク新規加盟地域決定」の記事の中で下記の誤りがありましたので，訂正しお詫びいたします．

誤）館山黒部　→　正）立山黒部

事務局営業カレンダー　お休み

10月 October

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11月 November

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都文京区湯島３－20－12

ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

国際第四紀学連合第19回大会（INQUA2015）

国際第四紀学連合の大会は４年に１度開催され，そこでは「第四紀」と呼ばれる約260万年前から現在までの地質時代に地球上で起こった事象に関する幅広い分野の研究発表が行われています．今大会1000名を超える参加が見込まれています．

今大会では116のテーマセッションが設けられております．みなさまがこれまでに行った研究成果を世界に発信できる良い機会であるとともに，海外の研究者との交流や情報交換を行うまたとない機会ですので，ぜひとも発表の申込みをご検討頂けますようお願い申し上げます．

なお，原則として各テーマセッションはINQUAが行っている５つの委員会に対応付けされています．各委員会の概要については下記をご参照下さい．研究内容が個々のセッションのテーマと合わない場合には，各委員会に関連した発表を広く受け付けるポスター発表セッションも用意しております．ご不明な点については，電子メールで大会組織委員会事務局宛（2015inqua-sec@inqua2015.jp）にお問い合わせ下さい．

日本第四紀学会　会長　小野　昭
国際第四紀学連合第19回大会組織委員会大会委員長　齋藤文紀

日程：2015年７月27日（月）～８月２日（日）
会場：名古屋国際会議場
口頭・ポスター発表の申込締切：2014年12月20日
早期参加登録締切：2015年２月28日
大会ホームページ（各種お申込みはこちらから）：http://inqua2015.jp
セッション一覧：http://convention.jtbcom.co.jp/inqua2015/session/index.html
LOC Facebook：https://www.facebook.com/INQUA2015

問合せ先：大会組織委員会事務局
<2015inqua-sec@inqua2015.jp>

【INQUAの５つの委員会の概要】

１．CMP（Coastal and Marine Processes：海洋および沿岸プロセス委員会）
海洋および沿岸に関する研究全般について取り扱っています．現在５つの作業部会があり，海岸線近傍の第四紀環境変遷や大陸棚，そして外洋の環境変遷についての研究を行っています．日々進展する年代測定についての知見も重要なテーマのひとつであり，作業部会のひとつではそれについて取り組んでいます．

２．PALCOMM（Palaeoclimate：古気候研究委員会）
プロキシと呼ばれる過去の表層環境シグナル（花粉やプランクトン，それらの化学データ等からもたらされる気温や降水量情報等）を使って気候モデルとの比較検討を行い，気候システムの理解を深めるための研究を進める委員会です．

３．HaBCom（Commission for Humans and the Biosphere：人類および生物圏研究委員会）
人類と環境の相互関係の探究とともに，気候や環境の変動が生物や人類に対してどのような影響を与えるかの解明を目指しています．地域的にも多様なプロジェクトが立ち上がっています．広く古生態学，考古学，人類進化のテーマもカバーし，時代も旧石器時代から歴史時代までフォローしています．

４．SACCOM（Stratigraphy and Geochronology Commission：第四紀層序・地質年代委員会）
層序学・編年学を通じて第四紀研究に寄与するため，各大陸の層序調査と区分，テフラ年代学，レス古土壌，乾燥地年代評価などの６つの作業部会を中心に定期的会合・出版・広報活動を行っています．

５．TERPRO（Commission on Terrestrial Processes, Deposits and History：陸域のプロセス・堆積物・地史研究委員会）
第四紀の陸域における環境とその変化に関するあらゆる分野を研究対象としています．現在，陸水，古土壌，活構造，災害，地下水に関する研究グループが活動していますが，雪氷・周氷河，沙漠，都市地質などに関する研究も，この委員会の活動に含まれます．

平成27年度共同主催国際会議「北極科学サミット週間2015」発表募集

本国際会議は北極に関する国際北極科学委員会（IASC）が中心となって毎年開催される北極研究に関する会議の集合体であり，北極研究を進めている組織が集い北極に関するあらゆる分野間の調整・協力や科学的成果について集中的に議論を行うことを目的としています．1999年ノルウェーでの開催を皮切りにこれまで世界各国で16回開催され，2015年４月には日本で初めて富山で開催されることになりました．

今回期間中開催される第４回国際北極研究シンポジウム（ISAR-４）では北極研究の成果を議論するために６つのセッションが予定されています．第３回国際北極科学計画会議（ICARP３）は北極科学研究の10年計画を策定する10年に一度の会議であり，10のセッションが予定されています．参加登録とアブストラクトの募集が開始されました．詳細はWebサイトに掲載されておりますので，皆様奮ってご参加くださいますようお願い致します．

開催期間：2015年４月23日～30日
会場：富山国際会議場
アブストラクト締切：2014年11月10日
参加登録締切：2015年３月31日

【Webサイト】
ASSW2015（英語）：http://krs.bz/scj/c?c=98&m=21728&v=30edcf72
ASSW2015（日本語）：http://krs.bz/scj/c?c=99&m=21728&v=95665f7c
ISAR-4：http://krs.bz/scj/c?c=100&m=21728&v=881c9876
ICARP3：http://krs.bz/scj/c?c=101&m=21728&v=2d970878

【お問い合わせ】
ASSW2015事務局
E-mail：assw2015-office@nipr.ac.jp
TEL：042-512-0927
FAX：042-528-3195

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

応募

大阪教育大学教育学部自然研究講座教員公募

１．職名及び人員：准教授又は講師 １名
２．所属講座：自然研究講座
３．専門分野：自然科学（固体地球科学分野）
４．担当授業科目：（学部）自然科学実験Ⅰ，情報処理演習，自然科学ゼミナール など（大学院）宇宙地球圏システム論ゼミナールⅠ，宇宙地球圏システム論ゼミナールⅡ，宇宙地球圏システム特別研究
５．応募資格：（1）博士の学位を有する方（2）国際交流に理解と意欲のある方（3）理科教諭養成教育に理解と意欲のある方
６．採用予定：平成27年４月１日
７．応募締切：平成26年11月10日（月）17:00必着

8．提出書類：（1）個人調書（本学所定の様式による．写真貼付のこと）（2）個人調書に記載の業績に関する別刷り又は写し（主要5部）（3）これまでに行ってきた研究・教育の概要（1,000字程度）（4）今後の研究・教育に対する抱負（1,000字程度）（5）照会可能な方２名の氏名と連絡先

※提出書類については選考結果と共に返却しますので，返却先を記載の上サイズに応じてレターパックプラス又は着払用のゆうパックのシールを同封してください．なお，選考結果の発送については，本学Webサイトの「採用情報」にてお知らせします．

9．書類提出先：〒582-8582　大阪府柏原市旭ケ丘４-698-１
大阪教育大学管理部人事課人事係あて
（封筒に「自然研究講座教員応募書類在中」と朱書きし，簡易書留で郵送してください．）

10．問い合わせ先：人事課人事係
TEL　072-978-3233　　FAX　072-978-3243
E-mail　ninyo@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

11．その他：
・選考過程で面接をすることがあります．面接に伴う旅費は自己負担です．
・本学の大学教員の定年年齢は，満65歳です．
・「大阪教育大学男女共同参画推進行動計画」に基づき，男女比率のバランスに配慮した採用を進めておりますので，女性の応募を歓迎します．
・退職手当の基礎となる在職期間の通算は，法人化前の取扱いとは異なります．退職手当関係については，お問い合わせください．

福島大学共生システム理工学類教員公募

１．専門分野
衛星データによる環境変動解析，および気象データや衛星データを利用した数値モデルによるシミュレーション解析に関する研究業績がある方．

２．教育担当科目
学類：衛星観測データの解析や，地域スケールから地球規模に至る水循環や炭素循環，エネルギー循環などの解明や予測に関する学類の専門科目および実践科目を担当していただきます．
（なお，公募分野のこれまでの担当教員による科目名は「衛星データ解析」，「環境モニタリング」，「環境モデリング」，「環境モデリング演習」です．）
「環境システム概論」等，他の教員と分担で行う専攻科目
「卒業研究」等，研究室配属学生の教育指導
大学院：専門教育分野・領域の講義および修士・博士論文研究の教育指導
なお，現代教養コース（社会人を対象とするコース），共通教育（全学を対象とした基礎教育）なども担当することがあります．

３．職名・人員
（1）准教授又は講師（任期なし）
（2）１名

４．応募資格・求める人材
（1）博士の学位を有する方．
（2）専門分野において教育の経験を有し，東北地方についても研究を行う意欲がある方．
（3）年齢 満35歳程度以下（平成27年４月１日現在）．
年齢制限の設定は，長期勤続によるキャリア形成を図るため（雇用対策法施行規則第１条の３第１項第３号イ）．
（4）福島市あるいは近郊に居住できる方．
（5）国籍は問わないが日本語による教育が可能な方．

５．採用予定：平成27年４月１日

６．応募締切：平成26年11月14日（金）必着

７．提出書類
（1）履歴書（写真を貼付すること．所属学会も明記すること．）１通
（2）最終学校修了証明書（単位取得証明書）又は在学証明書 １通
（3）学位記の写し，又は証明書 １通
（4）研究業績目録（原著論文（査読の有無を明記），著書，国際会議，特許，外部資金取得状況など，参考となるもの．うち，主要論文５編に○印を明記すること．）１部
（5）著書及び論文等（目録で主要論文としたもの．コピー可．）各１部
（6）研究業績の要約（形式自由・2,000 字程度）１部
（7）教育業績等の要約（形式自由・2,000 字程度．教職歴のある方は，担当授業科目等を具体的に記した上で，授業での工夫などを記してください．教職歴がない場合は，授業を想定した教育方法と，現在までの経歴が教育に与えるインパクトを記してください．）１部
（8）採用後の研究計画（形式自由・2,000 字程度）１部
（9）採用後の教育計画（形式自由・2,000 字程度）１部
（10）応募者の人物について照会が可能な方２名の氏名と連絡先 １部

８．選考方法
提出書類を審査し，必要に応じて面接を行った上で，選考します．面接に要する費用は応募者の負担とします．

9．書類提出先
〒960-1296　福島市金谷川1 番地 福島大学共生システム理工学類長
（郵送の場合は書留とし，封筒の表に「衛星データ解析分野 応募書類在中」と朱書して下さい．）

10．問い合わせ先
福島大学共生システム理工学類支援室
電話（024）548－5213，
Fax（024）548－3181
E-mail：kyosei@adb.fukushima-u.ac.jp

鳥取県職員（学芸員：地学担当，生物担当）募集

募集する職及び採用予定人数：
学芸員又は学芸員の職務に準ずる職務に従事する職員（地学担当）　　１名
学芸員又は学芸員の職務に準ずる職務に従事する職員（生物担当）　　１名

採用予定日：平成27年４月１日

職務内容：
地学担当：地形・地質及び古生物等に関する資料の収集・保管，調査研究，展示，及び教育普及業務等又は県が推進する山陰海岸ジオパークに関する業務
生物担当：生物（海洋生物を含む）に関する業務

勤務場所：鳥取県立博物館又は知事部局（山陰海岸ジオパーク担当課等）

受験資格：
（1）大学又は大学院で次のいずれかの担当に応じた分野を専攻して卒業（修了）又は平成27年３月31日までに卒業（修了）見込みであること
　ア　地学担当：地形・地質，古生物に関する分野
　イ　生物担当：生物に関する分野
（2）昭和50年４月２日以降に生まれた人．
（3）日本国籍を有しない人については，活動に制限のない在留の資格を取得している人又は平成27年３月31日までにこの資格を取得する見込みの人に限り受験できます．
（4）地方公務員法第16条に該当する人は受験できません．

受付締切：平成26年11月６日（木）必着

第１次試験：論文審査
第２次試験：論文試験・人物試験（平成26年12月５日（金））

詳しくは，
http://www.pref.tottori.lg.jp/177944.htm

東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻教員公募

１．募集人員：地球惑星科学専攻専任教授（定年65歳）１名

専門分野：固体地球科学
(1) 主に，固体地球物理学，地質学，岩石・鉱物学，地球化学などを専門とする方
(2) 本専攻の他分野に広く関心を持ち，他研究室との共同研究に積極的に取り組む方
(3) 大学院・学部の教育研究・運営を通して，次世代研究者育成に意欲的に取り組む方
2．応募資格：博士学位を有する方
3．着任時期：採用決定後，できるだけ早い時期
4．提出書類：
(1) 履歴書（市販のもので可）
(2) これまでの研究・教育の実績（2,000 字程度）
(3) 今後の研究・教育の計画・抱負（2,000 字程度）
(4) 研究業績リスト
A．査読付き原著論文（英文による国際雑誌掲載のもの）
B．著書，その他特記すべき出版物
(5) 主な原著論文の別刷（コピー可）5編以内
(6) 科学研究費補助金などの外部研究資金獲得実績リスト（過去5年分，代表者・分担者別）
(7) 応募者について参考意見をうかがえる方の氏名・所属・E-mailアドレス（国内外，各2名）
注　選考の過程で必要が生じた場合，追加して書類を提出していただくことがあります．
5．応募締切：平成26年12月10日（水）必着
6．応募書類の送付先：
〒152-8551　東京都目黒区大岡山2-12-1 Ⅰ2-20
東京工業大学 大学院理工学研究科 地球惑星科学専攻 秘書室（209号室）気付
中本泰史 宛
Tel：03-5734-2339
できるだけ「宅配便」にてご送付ください．
7．問い合わせ先：中本泰史
e-mail：nakamoto@geo.titech.ac.jp,
Tel：03-5734-3535

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼をご案内いたします．

2015年度日本地球惑星科学連合フェロー候補者推薦募集

連合では，2015年度連合フェロー候補者の推薦を募集しております．日本地球惑星科学連合フェロー制度は，地球惑星科学において顕著な功績を挙げた方を高く評価し，名誉あるフェローとして処遇することを目的として設置されたものです．下記詳細をご覧の上，締切までに必要書類をお送りください．

JpGUフェローの満たすべき要件：
地球惑星科学研究領域におけるパラダイムシフトやブレークスルーもしくは大きな発見などを通じて，日本の地球惑星科学の発展に著しい貢献をした方

JpGUフェロー被推薦者：
会員・非会員を問いません．ただし，以下の者は推薦の対象となりません．
・JpGUの現職理事・監事・セクションプレジデント
・フェロー審査委員

推薦締切：2014年12月31日（水）必着

募集詳細：http://www.jpgu.org/news/fellow2015program.html
2014年度フェロー情報：http://www.jpgu.org/news/fellowlist.html

お問い合わせ：担当理事　中村（050-3362-3936）

地球惑星科学振興西田賞推薦募集

この度公益社団法人日本地球惑星科学連合は「地球惑星科学振興西田賞」を創設し，国際的に評価を得ている優れた45歳未満の中堅研究者を表彰いたします．賞の名称は西田篤弘会員（フェロー）のご提案と寄付金により賞を維持することに由来します．

1．受賞者の条件
地球惑星科学の分野において新しい発想によって優れた研究成果を挙げ，国際的に評価を得ている方で審査年度当初（4月1日）に45歳未満の研究者が受賞対象者となります．原則として個人ですが，2名までの連名を認める場合があります．地球惑星科学連合会員・非会員，国籍，性別は問いません．10名の受賞者を選考委員会にて選びます．

2．推薦
i．選考対象は推薦によるものとし，自薦および他薦を認めます．ただし他薦の場合には本人に受賞の意思があることを事前に確認することが必要です．
ii．推薦に必要な書類は以下の通りです．全て日本語か英語にて作成して下さい．
・候補者の名前，連絡先（所属機関，住所，電話番号，メールアドレス等）
・候補者の経歴，受賞歴
・全査読付き論文リストおよび主要な論文5編の別刷り
・推薦理由書（A4で6ページ以内）
・自薦の場合は2通の推薦書，他薦の場合は推薦者以外の2名のサポートレター
・他薦の場合は推薦者の氏名と連絡先（住所，電話番号，メールアドレス等）
iii．提出はワードファイル，およびそのPDF版を当該年度の推薦期間内に地球惑星科学振興西田賞事務局（jpgu_nishidasho@icloud.com）にメールにて送付してください．但し論文別刷りはPDFのみで結構です．

3．推薦締切：2014年12月15日（月）

4．顕彰方法
i．賞状を贈ります．
ii．副賞として受賞者に1件あたり50万円を贈ります．

5．詳細は http://www.jpgu.org/news/nishidaprize.html をご覧下さい．

山田科学振興財団 2015年度研究援助候補推薦

援助の趣旨：
1）萌芽的・独創的研究
2）新規研究グループで実施される研究
3）学際性，国際性の観点からみて優れた研究
4）国際協力研究

援助対象期間：2015年9月～2017年3月の研究

受付期間：2014年10月1日～2015年2月27日

推薦方法：学会推薦
※学会推薦（推薦件数3件）となりますので，推薦希望の方は，2015年1月31日（土）までに学会事務局までに必要書類をそろえて，お申し出下さい．

応募資格：
当該研究を独立して実施し得る者．本の研究機関に所属する研究者であれば身分，経歴，年齢等は問いません．

問い合わせ先
公益財団法人　山田科学振興財団
〒544-8666　大阪市生野区巽西1丁目8番1号
電話　大阪（06）6758-3745（代表）
http://www.yamadazaidan.jp

第42回「環境賞」募集

表彰の対象
環境保全に関する調査，研究，開発，実践活動等で画期的な成果を挙げ，または今後成果が期待される個人，法人，またはグループ．（自薦，他薦を問わない．）

対象となる調査，研究，開発，実践活動の例
・大気の汚染，水質の汚濁等いわゆる典型７公害及び廃棄物（除く，放射性廃棄物）に関するもの
・環境汚染のメカニズム，環境破壊の予知・予測及び環境影響評価に関するもの
・環境の質の向上及び維持に関するもの
・環境の管理に関するもの
・自然環境の保全に関するもの
・地球環境保全に関するもの　等

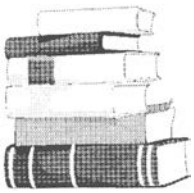
環境賞
イ）優秀賞（副賞100万円）　ロ）優良賞（副賞50万円）
環境大臣賞
優秀賞のうち，とくに優秀と認められるものに，環境大臣賞の楯が授与される

応募の方法
公募によるものとし，関係学会，団体等の推薦または本人よりの申請による

提出書類
推薦者又は申請者は所定用紙に内容を記載して提出するものとする
※申請書のダウンロードは下記のホームページより
http://www.hitachi-zaidan.org/kankyo/

応募締切　2014年12月19日（金）※当日消印有効（学会推薦をご希望の方は，11月末日までに提出書類を整えて，学会事務局までご連絡下さい）

提出先
公益財団法人日立環境財団
〒101-8010
東京都千代田区外神田四丁目14-１　秋葉原UDXビル21階
TEL：03-3257-0851　FAX：03-3257-0854



紹　介

サイエンス・パレット
科学革命

ローレンス・M・プリンチペ　著
菅谷　暁・山田俊弘　訳

丸善出版，2014年８月30日発行，新書判，220ページ，ISBN978-4-621-08772-5．定価1,000円（税別）

1995年から始まった，オクスフォード大学出版会の「Very Short Introductions」は，美しい３色刷りの表紙をもつ，新書版の大きさの150ページほどからなる入門書シリーズで，300冊近くある．日本では，大きな書店や大学の書籍部に並んでいるので，手にされた方も少なくないと思う．内容は，自然科学から人文科学まで多岐にわたり，25か国語以上に訳されている．地球科学に関するものはThe Earth（川上紳一訳がある），Fossils，Global Catastrophes，Planetsなどいろいろある．

「Very Short Introductions」の「The Scientific Revolution」を手にしたとき，その素晴らしさに息をのんだ．一般に入門書はどこにでも見られるありふれた事項が並び，ともすれば冗長で，コラムなどにちょっと楽しそうな話が並んでいるだけなのだけれど，The Scientific Revolutionは濃厚な内容をわかりやすいことばで書き，かつ，最近の科学史の研究成果もきちんと書かれていた．「The Scientific Revolution」を読めば，科学革命について正確な知識と理解がえられる．著者プリンチペ氏は現在アメリカのジョン・ホプキンス大学で科学技術史と化学の教授をしている．現代の達人である．それが，とてもわかりやすい文章で書いている．日本では，一般書は中学生が読んで理解できるように書くという鉄則があるが，なかなかうまくいっていない．漢字に第１水準，第２水準などというランクがあるが，「Very Short Introductions」は英語の第1水準で統一されているように思った．よほど，編集者が努力しているのであろうか，いや，プリンチペ氏が科学革命を知悉しているのであろう．

最近，待望の訳書が発行された．訳者はゴオーの『地質学の歴史』，ラドウィックの『太古の光景』や『化石の意味』などを訳してきた菅谷暁氏と，ステノの『プロドロムス固体論』を訳した山田俊弘氏である．原著の英語はとても読みやすいという印象を得ているが，訳すのは大変である．本書は原著を彷彿とさせる読みやすい訳である．

地質学は18世紀，19世紀に盛んになった学問である．なぜ『科学革命』など読む必要があるのかと疑問を持たれるかもしれない．理由のひとつは，近代科学は激動の16，17世紀の科学革命をもとに誕生したからである．現在，論文の捏造などで科学の倫理が問われたり，多くの災害を前にして科学がどこまでできるのか，地質学者も科学の根本問題を抱えていかなければならなくなっている．そんなとき，科学の歴史は多くの示唆をあたえてくれるはずだ．もうひとつは，近代地質学がどこから生まれてきたかも本書は語ってくれている．将来に向かって，地質学がどのように進んでいくべきか，それにも本書は答えてくれるだろう．

本書は，プロローグ，１　新しい世界と古い世界，２　結ばれた世界，３　月より上の世界，４　月より下の世界，５　ミクロコスモスと生きものの世界，６　科学の世界を組み立てる，そして，エピローグよりなっている．まず，16，17世紀の『科学革命』期に，多くの思想家，学者たちが，自分の目で自然界を観察し観測し，自分の頭で考えて，聖書や遠い昔の大学者に縛られていた世界から，考え方を大胆に開放したこと，そして，自分の足で立つことのできる，現代の科学の基盤を生んだことが述べられている．16，17世紀の『科学革命』期を最近は初期近代と呼んでいる．混沌とした初期近代の世界を訪ねてほしい．望遠鏡，顕微鏡，印刷機などが使用され始め，人々は宮廷やアカデミー，コーヒーハウスやパブで議論を交わす一方，アイデアやデータを満載した手紙が遠く離れた観測者の間で飛び交う．アジアやアフリカから，さまざまな見たこともない動植物も鉱物もどんどん入り込んでくる．そんな時代である．

アリストテレスの学問を否定し，コペルニクス，ケプラー，ガリレオ，ニュートンなどが新しい宇宙観や運動論を生み出し，ボイルなどの錬金術から化学が生れ，ハーヴェイ，ヘルモントから新しい生物学が生れていく．

そして，地質学の生まれてきた土壌を見つけてほしい．ガッサンディ，ライプニッツ，キルヒャー，ステノ，巨人が並んでいる．磁石の力がどこから生まれたのか，激しい火山活動をなんと解釈するのか，初期近代の学者たち（科学者ということばは19世紀に生まれた）は悪戦苦闘する．キルヒャーの素晴らしい論理を味わってほしい．

本書でもうひとつ読んでほしいのは，いくつかの俗説の否定である．「コロンブスが地球の端から転げ落ちると考える者はだれひとりいませんでした．」「科学の歴史においてガリレオと教会ほど神話と誤解に包まれやすいエピソードはほかにありません．……科学対宗教という単純な問題ではありませんでした．」などなど．

廉価であっという間に読める本であるが，得られるものは大きい．

文献

Printipe, Lawrence M. The Scientific Revolution. Oxford University Press, 2011.

Martin Redfern（著），川上紳一（訳）『地球―ダイナミックな惑星』（サイエンス・パレット），丸善出版，2013年．

ガブリエル・ゴオー（著），菅谷　暁（訳）『地質学の歴史』，みすず書房，1997年．

マーティン・J. S. ラドウィック（著），菅谷暁（訳）『太古の光景―先史世界の初期絵画表現』，新評論，2009年

マーティン・J. S. ラドウィック（著），菅谷暁，風間敏（訳）『化石の意味―古生物学史挿話』，みすず書房，2013年．

ニコラウス・ステノ（著），山田俊弘（訳）『プロドロムス固体論』東海大学出版会，2004年．

（**矢島道子**）

地質リーフレットたんけんシリーズ3

城ヶ島たんけんマップ　深海から生まれた城ヶ島

岩礁海岸を中心とした豊かな自然景観を楽しめる城ヶ島。ハンディタイプのリーフレットが出来ました。
裏面は、城ヶ島の空中写真に示した観察ポイントごとに写真やイラスト付きでわかりやすく解説。野外での観察にも最適です。

編　著：日本地質学会地学教育委員会
発　行：一般社団日本地質学会

定価400円（会員頒価300円）
※20部以上ご注文の場合は割引あり

シリーズ1・2
「箱根火山たんけんマップ」
「屋久島地質たんけんマップ」
好評発売中！

購入希望の方は、学会事務局まで．e-mail：main@geosociety.jp　電話：03-5823-1150

地質リーフレットたんけんシリーズ4

富士山　青木ヶ原溶岩のたんけん
―樹海にかくされた溶岩の不思議―

シリーズ1・2・3
「箱根」「屋久島「城ヶ島」
も好評発売中！

編　著：日本地質学会地学教育委員会
発　行：一般社団日本地質学会

定価400円（会員頒価300円）
※20部以上ご注文の場合は割引あり

青木ヶ原の「溶岩」をテーマにしたリーフレットができました．
道の駅や西湖コウモリ穴など，アクセスしやすい観察ポイントです．写真やイラストをふんだんに使用し，わかりやすく火山現象を解説しています．

購入希望の方は、学会事務局まで．e-mail：main@geosociety.jp　電話：03-5823-1150

学協会・研究会報告

IGCP 608「白亜紀のアジアー西太平洋地域の生態系システムと環境変動」第２回国際シンポジウム（東京・早稲田大学）

安藤寿男（茨城大学理学部）
安藤卓人（北海道大学大学院・理学院・博士後期課程）

The Second International Symposium of IGCP608 “Cretaceous Ecosystems and Their Responses to Paleoenvironmental Changes in Asia and the Western Pacific”

◆シンポジウム◆

2013年３月に採択され活動２年目となるIGCP（地質科学国際研究計画）608「白亜紀のアジア－西太平洋地域の生態系システムと環境変動」（2013－2017）の，第２回国際シンポジウムが，このほど2014年９月４～６日の日程で，早稲田大学大隈講堂で開催された（写真１）．

これには，海外39名，国内45名の計84名の登録参加者があり，実行委員会のスタッフを合わせると約100名を超える盛況であった．参加者は日本を含め13か国におよび，女性26名，大学院学生15名を数えた．第１回集会の開催国インドからは10人に及んだ．

初日の９月４日（木）午前は，井龍康文日本地質学会会長の歓迎挨拶のあと，安藤がIGCP608の活動と今回のシンポジウムの意義を紹介する開会挨拶を行った（写真２）．本学会元会長の岡田博有先生が東アジアの白亜系をテーマとするIGCP350（1993-1998）を始められて以来20年におよぶ，東アジア白亜系IGCPの歴史（IGCP350-434-507-608）を示した後，本年５月に急逝された実行委員会副委員長の平野弘道早大教授（IGCP434リーダー：1999-2004）に黙祷を捧げた．基調講演はJames Haggart（カナダ地調）氏に依頼することができ，「北米太平洋岸域の白亜系の化石層序・古環境・テクトニクス：環北太平洋域の統合対比に向けて」と題する，氏の研究を総括する話を聞くことができた．平野先生が主催したIGCP434の第１回国際シンポジウム（2000年１月，早稲田大学国際会議場）の際には，プログラム確定後に講演がキャンセルされていただけに，14年ぶりのIGCP早稲田集会での招へい講演となり，平野先生に聞いていただきたかった．

３日間のシンポジウムでは，以下の６つのセッションで44件の口頭講演が行われた．

１）海洋無酸素事変諸現象：アジア－西太平洋域地層記録からの貢献（９件）
２）生物相進化：アジア－西太平洋域の動物相・植物相（微小動物相：10件）
３）アジアの白亜系ジオパーク（３件）
４）陸－海リンケージ：対比・堆積・古環境（10件）
５）テクトニクスと古環境：アジア－西太平洋域（４件）
６）生物相進化：アジア－西太平洋域の動物相・植物相（大型動物相：８件）

一方，ポスターセッションは，以下の３つのセッションで計37件の発表があった．３日間掲示したまま，２日目と３日目の13:00～14:00に各１時間のコアタイムを設けることにした．

１）陸－海リンケージ：対比・堆積・古環境（16件）
２）生物相進化：アジア－西太平洋域の動物相・植物相（16件）
３）アジアの白亜系ジオパーク（５件）

個々を詳しく紹介する紙数はないが，３つほど紹介したい．

写真１　大隈講堂前での記念撮影．

海洋無酸素事変（OAE）のセッションでは，北海道蝦夷層群の白亜系を中心に海洋無酸素事変の先駆的研究をされた平野先生の追悼の意義を込めて，最新の研究成果が披瀝された．フランス，北米西海岸，中東ペルシャ湾域，ニュージーランドでのケーススタディも紹介され，日本の研究者を中心に，全球的な視点からOAE研究が取り組まれている様子が把握できた．

アジアの白亜系ジオパークセッションは口頭３件，ポスター５件と小規模であったが，日・韓・加の最新の活動紹介を含み，IGCP608のメンバーが活躍する様子がわかる臨場感のあるセッションとなった．特に，Haggart氏が紹介したカナダのTumbler Ridge Aspiring Geoparkは９月19-22日に開かれた第６回世界ジオパーク会議で世界ジオパークとして承認されている．また，高木秀雄氏の講演では，UNESCOのプログラムであるIGCPとGeoparksがIGGP（International Geosciences and Geoparks Programme）として統一されることになったという最新情報も披瀝された．

ポスター・セッションでは，廊下やロビーに配置されたボード前で熱心な討議がされたが，日・韓で計16名もの大学院学生の発表がなされたのは特筆すべきであろう．（写真３）．

初日（９／４）の歓迎パーティーは，キャンパス内にあるリーガロイヤルホテル東京で，３日目（９／６）の送別パーティーは学内の大会議室でいずれも立食形式で行われた．シンポジウムの開会セッションも含め，余興として早稲田大学の学生サークルによる力強い演奏・歌声に加え，迫真の踊りも披露され，外国からの参加者だけでなく，皆が魅了された．

シンポジウム２日目の夕方には，各国の地域リーダーによるBusiness Meetingが持たれ，会議録論文出版に向けての日程や，2015年の第３回および2016年の第４回集会の日程等が議論された．

今回のシンポジウムは，国内外の諸学会の日程や会場の都合を考慮した上で，日本地質学会年会直前での開催日程を決めたが，結局，ヨーロッパで行われた国際学会が２つ，近接あるいは重なってしまい，何人かのメンバーは参加を見合さざるをえなかった．出席日程の設定の難しさを痛感させられた．

次回のシンポジウムは，中国瀋陽にある瀋陽師範大学でSun Ge教授をホストとする，第12回中生代陸成生態系国際シンポジウムと共催で行われる．８月16～18日がシンポジウム，巡検が８月19～22日で遼寧省のZhaoyang及びBenxi 地域とのことである．第１回Circularは本年12月頃に配布されることになっている．多くの日本人研究者の参加を期待する．

今回の集会にあたって，日本地質学会には

左から，写真２　安藤の開会挨拶．写真３　ポスターセッション

共催を承認いただき，geo-Flashや日本地質学会News等での広報にご協力いただいたことに感謝したい．日本古生物学会，日本堆積学会，産業技術総合研究所地質調査総合センター，日本ジオパークネットワーク，早稲田大学教育学部および地球科学教室，同大学国際教養学部，茨城大学には，共催もしくは後援をいただいた．また，東京地学協会，J-DESC，井上科学振興財団をはじめ多くの企業からも支援をいただいたので深謝申し上げる．

最後に，今回の集会は，安藤を委員長とし，太田　亨（早稲田大・教育）氏を事務局長とする総勢12名で実行委員会を組織し運営にあたった．太田氏をはじめ，村上瑞希（早稲田大・教育），守屋和佳（金沢大）氏らを含めた若手の活躍と，平山　簾（早大国際教養）氏および早稲田大学の学生諸氏の協力なくして，成功は望めなかったことは間違いない．実行委員会の皆さんにお礼申し上げたい．（**安藤寿男**）

◆地質巡検◆

シンポジウム終了後，９月７～10日の４日間，巡検が開催された．銚子層群・那珂湊層群・双葉層群まで千葉県・茨城県・福島県の太平洋沿いの白亜系の地層を主に対象とした今回の巡検は，私にとって価値あるものとなった．

初日は，千葉県銚子市に分布する銚子層群とその下位の愛宕山層群のチャートを観察した．実は銚子市は私の故郷と隣接しており，懐かしみながらの参加となった．しかし，あいにくの雨で最初の黒生港周辺の海鹿島層の礫岩と基底のチャートはなんとか観察できたものの，次の君ヶ浜層は高潮と大雨のために観察できなかった．昼食後，気を取り直して小雨の降る中，銚子ジオパークのハイライトの一つである，犬吠埼灯台の断崖を構成する犬吠層を観察した．ここでは非常に明瞭でダイナミックなハンモック状斜交層理を観ることができ，これには外国人参加者を含め参加者一同感動しているようであった．その後は雨も止み，銚子層群最上位の長崎鼻層の砂岩層とさらに上位の中・鮮新統名洗層の礫岩由来の転石を観察した（写真４）．悪天候ではあったが地元である銚子市における白亜系の重要性を再認識できた．夜は銚子市長や銚子市在住の化石愛好家・山田勝彦さんや千葉科学大学の安藤生大先生らも交え，銚子マリーナにある千葉科学大のカフェ・マリーナにてパーティーと勉強会が催された．外国人参加者は山田さんからサメの歯（現生）をプレゼントされ満足げであった．

２日目．曇り空の中，午前中は茨城県つくば市に移動し産総研地質標本館へ向かった（写真５）．つくば市には何度か来たことがあったのだが，標本館には立ち寄ったことがなかったので，今回館内をまわれて良かった．休館日にもかかわらず開錠して下さった館長の利光氏や標本館の職員方々に感謝したい．

午後は，ひたちなか市那珂湊の平磯海岸にて，白亜系那珂湊層群を観察した．しかし，またしても高潮で最初の平磯層の泥岩は，海岸沿いの露頭に降りて観察することができなかった．続く磯合層の清浄石と畜生岩（スランプ堆積物）も近くで観察することは難しかったが，その後海岸に降りて磯合層のタービダイト砂岩や土石流堆積物を観察できた．ホテルニュー白亜紀という施設もあることから，いかにひたちなか市が白亜紀層への愛着を持っていることに感心しつつ，宿泊先の北茨城市に向かった．

３日目．午前中は前日の夜にお世話になった五浦観光ホテル大観荘からほど近い五浦海岸に分布する中新統高久層群とその上位の多賀層群を観察した．五浦海岸の高久層群九面層は化学合成群集の二枚貝化石が観察できるため，メタン冷湧水域の環境を示す堆積相であると考えられている．五浦観光ホテル本館南側の庭園の置石はこの九面層の転石であり，貝化石を詳細に観察できた．海岸の地層を観察した後は，岡倉天心が設計したという六角堂を訪れた．六角堂は東日本大震災の津波被害によって消失したものの，１年後に修復された茨城大学五浦美術文化研究所内にあり，ジオサイトの一つとなっている．

午後は福島県いわき市に向かい，いわき市石炭・化石館といわき市アンモナイトセンターに行った．石炭・化石館では多くの化石展示と炭坑が再現された施設に感動し，アンモナイトセンターでは丁寧に表面がクリーニングされたアンモナイト多産層の全面露頭を観察し，センター脇の体験発掘用露頭で化石採集を行なった．今回は双葉層群足沢層からはアンモナイトを見つけられなかったが，私はコニアシアン階の示準化石であるイノセラムス・ウワジマエンシスをお土産にできた．

最終日は見事に晴れ，広野町からいわき市北部に分布する白亜系双葉層群の露頭を観察できた．最初のStopでは双葉層群最下部の足沢層浅見川部層と基底花崗岩の不整合面を観察した．川沿いの小さな露頭ではあったが，双葉層群の成因を考察する上で重要な場所であると感じた．続いて，太陽光発電所そばの崖を形成する大露頭に訪れた．ここでは双葉層群の笠松層と玉山層，上位の始新統白水層群石城層を観察した．玉山層の砂岩と石城層の礫岩との間の不整合は非常に明瞭で，その

左から，写真４　巡検１日目午後　銚子市長崎鼻　銚子層群長崎鼻層．写真５　巡検２日目午前　産業技術総合研究所地質標本館前

他にも様々な堆積構造を観察することができた．その後，「海竜の里」にて昼食をすませた．敷地内の巨大なブラキオサウルスの滑り台は衝撃的で，パキスタン人の参加者はこのような施設を母国にも造りたいと興奮して語っていた．最後のStopは巡検案内書の写真と比べ植生や民家で覆われてしまっていたものの，ハンモック状斜交層理などを観察できた．その後，長時間のバス移動を経て，高田馬場駅前で雨の降る中での解散となった．

今回の巡検では案内者・主催者である茨城大学の安藤先生とその学生の方々，早稲田大学の平山先生と太田先生，富山大学の柏木健司先生，そして巡検参加者の方々には非常にお世話になった．この場を借りて感謝したい．

（安藤卓人）

国際ゴンドワナ研究連合（IAGR）2014年総会及び第11回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム参加報告

吉田　勝[1]・角替敏昭[2]・齋藤陽介[2]・飯沼美奈子[2]・小林愛理[3]・高村悠介[3]
（[1]ゴンドワナ地質環境研究所　[2]筑波大学生命環境科学研究科　[3]筑波大学地球学類）

表題の会が９月19日から21日にかけて北京の中国地質大学（CUGB）で行われた．シンポジウムトピックスは１．Secular Evolution of Earth: Supercontinents, life and Environment; ２．Gondwana to Asia; Orogenic Belts, Correlations and Connection; ３．Metallogeny; ４．Geophysical Imaging of Continents and Cratonsで，前回と同様にIGCP-592（Continental Construction of the Altaids）とIGCP-628（The Gondwana Map Project）も参加していた．シンポジウムの後22日から24日にかけて原生代後期Damiao火成複合岩体の野外巡検があったが筆者らは参加しなかった．

CUGBは1950年代に北京周辺の４国立大学の地質学教室を統合して発足した中国の地質学教育を代表する大学で，17学部に所属する教員約1000人，学生約8000人と大学院生約6000人であり多分世界最大の地質学大学であろう．北京市北東の教育・研究エリアにあり，約400,000m^{2}の広いキャンパスの中には，新旧の10～20階前後のビルが林立している．そのビルの多分半分以上は，学生の99%以上が住んでいるという寄宿舎ビルである．その中のひときわ立派なビルが国際会議センターホテルで，IAGR総会・シンポジウムその他の関連の会議や行事は参加者の宿舎も含め，すべてここで行われた．

会議参加者は全部で105人前後，内訳は中国（46人），ロシア（17），オーストラリア（10），日本（６），インド・韓国・米国（各５），ルーマニア（３），カナダ・英国（各２），台湾・ドイツ・キルギス・カザクスタン（各１）であった．共催参加のIGCP-592関係で，ロシアとその周辺国からの参加者が多かった．他にCUGBの学生ら数十人が未登録で傍聴に来ていたようだ．

シンポジウムは200人ほど収容の大会議場ですべての発表が行われ，会議場の後方にはポスター会場が設置されていた．会議場入り口前のロビーはティーとランチブレークの場所となっており，宿泊も含めてなかなか便利でわかりやすい設営であった．

９月19日は参加者登録，ポスターの添付作業とアイスブレーカーパーティーであった．受付はCUGBと筑波大学の女子学生たち６人だけで，てきぱきとこなしていた．

20日９時からの開会式は，IAGR事務局長M. Santosh，CUGB評議会議長H. Wangと大会組織委員長X. Wanらの挨拶など約20分間で終わり，10分間のティーブレークを経て講演に移った．この日の講演は15分間の一般講演14題が数題づつ４回のセッションに分けて行われ，それぞれのセッションの前には基調講演（下記の５題，各30分）があった．

写真２　登録デスクの女学生たち，中央は吉田とM. Santosh

写真１　会場の国際会議センターホテル

R. D. Nance, J. B. Murphy, Origin of the Supercontinent Cycle.

J. G. Meert, Lonely Wanderers and Gondwana.

M. Brown, Proterozoic vs Phanerozoic Geodynamics and Speculations on the Supercontinent cycle.

S. Wilde, Terminal Events in the Eastern Segment of the Cnetral Asia Orogenic Belt.

Bor-ming Jahn et al., Sr-Nd-Hf Isotopic Characterization of Granitoids in Accretionary Orogens of Asia and Implications for Crustal Development.

講演の後18時30分からは晩餐会・懇親会があり，2013年Gondwana Research Best Paperの発表と表彰がありイタリアのS. Zanchettaら，The Record of the Late Palaeozoic Active Margin of the Palaeotethys in NE Iranが受賞し，満場の祝福を受けた．引き続いてIAGR役員会が別室で行われ，2013年度経理報告や来年の大会予定地の提案が承認された．

21日は９時から講演17題がティーブレーク・ランチブレークをはさんで４セッションで行われた．そのうち基調講演は以下の６題であった．

A. S. Collins et al., Detrital Zircon and Muscovite Provenence: Constraints on the Evolution of the Cuddapah Basin, India.

N. M. W. Roberts, C.J. Spencer, Evolution of the Continental Crust: Insights from the Zircon Record.

写真 3　講演会場の風景

D. I Groves, Importance of Craton Margins and Other Lithosphere Boundaries for Gold and Other Metal Exploration.

R. J. Goldfarb, M. Santosh, The Jiaodong Gold Deposits, Eastern China: A Global Anomaly of Phanerozoic Gold in Precambrian Rocks.

R. E. Ernst & S.M. Jowitt, Large Igneous Provinces and Resource Exploration: Metals, Oil/Gas and Water.

D. E. Kelsey, M. Hand, Revisitng Ultrahigh Temperature Crustal Metamorphism at Regional Scale − Causes, Tectonic Setting, Phase Equilibria and Trace Element Thermometry Constraints.

講演会の後には学生のポスター最優秀賞発表があり，筑波大学の小林愛理らの最優秀賞と，他の3ポスターの優秀賞が発表された．このニュースは別に報告する．引き続くIAGR総会では，来年の総会・シンポジウムを日本の筑波大学で10月21～23日に行うことが発表され，角替が招待挨拶を行った．

以上，学術講演全体として，口頭発表43題は大部分が地殻形成，超大陸とゴンドワナからアジア関連であった．基調講演はいずれも最新，広範な知見を踏まえたわかりやすいレビューで好評であった．ポスター発表はいろいろな分野があったが，中国の地質に関する発表とIGCP-592関連のものが目立った．以下に筆者ら各自の感想等を記す．

写真 5　晩餐・懇親会は懐かしい友人たちと大いに楽しんだ

吉田　CUGBの活動を維持し，さらには新しい国際誌（Geoscience Frontier）を創刊するなど，中国の地質学に対する評価の高さと意気込みの大きさを感じた．また，大会事務局の中国の若い学生達の有能さと積極性に感心した．講演ではNance & Murphyが基調講演で超大陸研究の開拓者としてT.R. Worsleyの仕事を詳しく紹介したこと，B-M JahnがSr-Nd-Hf同位体データから日本列島周辺の地殻テクトニクスを論じたことなどが印象的だった．一般講演ではA. KroenerらとC. Clarkらが，ともにインド最南端のトリバンドラムブロックのジルコン年代学から，このブロックはここ数年言われてきたようなパンアフリカ帯ではなく，パレオ原生代の地質体起源であると指摘し，周辺の原生代テクトニクスを再検討せねばならないと強調した．このことは私が以前から指摘していたことであるが，今後はこの問題がゴンドワナ原生代テクトニクスのひとつの目玉となるであろう．

角替　今回は招待講演の占める割合が多く，最先端の情報収集を行うことができた．個人的には，Dave Kelsey氏による超高温変成作用のレビューとDamian Nance氏による超大陸サイクルのレクチャーが大変勉強になった．学会自体も非常によくオーガナイズされており，宿泊ホテルが会場となっているため，非常に快適な3日間であった．一方で，来年のホスト国として大きなプレッシャーを受けた学会でもあった．

斉藤　この会議には今回で3回目の参加であったが，豪華な会場，食事付き，それでいて参加費が無料という破格の待遇に驚いた．学会の内容としては，ゴンドワナに関連する地質学全般を網羅しており毎回ながら非常に勉強になった．特に微量元素や同位体組成から地殻進化を論じた発表は非常に興味深く，地球化学をもっと勉強しなければと感じた．個人的にはポスターセッションの時間にもう少し多くの人がポスターを通してディスカッションするような工夫が必要だと感じている．

飯沼　今年度のIAGRは私にとって初めての国際学会への参加となった．各国の研究者の方々が確信にあふれた持論を展開し，活発な議論が飛び交う口頭発表の光景．大学で授業を受けているだけでは得られない貴重な体験をさせていただいた．加えて今回はポスター賞を受賞することができ，大変光栄に思う．ご指導賜った諸先生方に，この場で感謝の言葉を述べさせていただきます．

写真 4　講演会場後部に設置されていたポスター会場

小林　私にとって，中国を訪問するのも，国際学会に参加するのも初めての経験であった．国際学会でお手伝いをしつつ，私自身もポスター発表をし，色々な国の先生の発表を聞くこともできた．ただ，自分の英語力や知識不足から内容を理解できない，コミュニケーションが満足にできないことがあったのが少し心残りである．しかし，それも含めて大変貴重な経験であった．この機会を与えてくださった先生方や，IAGRに関係した皆様に感謝しています．

高村　今回のIAGRは私にとって初めての国際学会でもあり，最先端の研究の発表を聞くことができただけでなく，自分の研究をポスターという形で発表して様々なアドバイスをいただくことができた一方，英語という課題にも直面した．これを刺激にして，来年のIAGRなどに向けよりいっそう勉強と研究に励んでいきたい．最後になりましたが，研究を指導していただいている先生方，そして私たちを歓迎してくれた中国地質大学の学生さんたちにお礼を述べたいと思います．ありがとうございました．

写真 6　来年の大会への招待と抱負を語る角替とI. Safonova

地学教育のページ

国際地学オリンピック：世界トップに！

第８回国際地学オリンピックがスペインのサンタンデールで開催され（９月22日～28日），日本選手団は，金メダル３個，銅メダル１個の世界トップの好成績を収めました．これは過去最高の好成績です．

金メダル
宇野慎介さん：灘高等学校（兵庫県）３年（18歳）
西山　学さん：巣鴨高等学校（東京都）３年（17歳）
野村建斗さん：筑波大学附属駒場高等学校（東京都）３年（17歳）

銅メダル
杉　昌樹さん：灘高等学校（兵庫県）３年（17歳）
（年齢は本大会終了時点のもの）

国際地学オリンピックは2007年に韓国にて第１回大会が開催され，日本は，2008年から参加を開始し，毎年４名の生徒を派遣しています．本年のスペイン大会は21カ国から82名の生徒が参加しました．2016年には，第10回国際地学オリンピックが日本（三重県）で開催される予定です．

◆過去３年間の日本代表の成績
2011年（第５回イタリア大会）
金メダル１，銀メダル２，銅メダル１（参加：26か国・地域，104名）
2012年（第６回アルゼンチン大会）
金メダル１，銀メダル３（参加：17か国・地域，66名）
2013年（第７回インド大会）
金メダル１，銀メダル３（参加：23か国・地域，90名）

受賞を喜ぶ日本選手団

（お問い合わせ）
NPO法人地学オリンピック日本委員会
電話：03-3815-5256　e-mail：esolympiad@yahoo.co.jp
http://jeso.jp/

筑波大学生命環境科学研究科
博士後期課程地球進化科学専攻では
社会人のための早期修了プログラムを開設しております。

本プログラムは、一定の研究業績や能力を有する社会人を対象に標準就業年限が3年である博士後期課程を最短1年で修了し、課程博士号を取得するプログラムです。

1. 対象：地球進化科学専攻の各研究領域（分野）と関連した研究業績を有する社会人（本研究科の社会人特別選抜合格者）で、早期修了プログラムによる課程博士の取得を希望するもの。
2. 提出書類
   ・早期修了希望調書（最終学歴・専門分野、業務内容と志望分野の関係等）
   ・業績リスト（査読付き学術論文、口頭発表資料他）
   ・自己評価書
   ・博士論文の構想（A4版2～4枚程度、書式自由、課題や関連分野の調査等）
3. 申請条件：筆頭著者の原著論文2編以上（査読付き国際学術雑誌に掲載済みもしくは受理・掲載可・印刷中(in press)
4. 平成27年度2月期入試は平成27年1月30日（金）に行われます。口述試験（個別面接）修士論文（またはこれまでの研究）及び入学後の研究について発表をして頂きます。

説明会：東京キャンパス文京校舎　平成26年11月9日（日）13：30～15：00
筑波キャンパス:(春日地区)　平成26年11月14日（金）18：30～20：00

早期修了プログラムの詳細　http://www.souki.tsukuba.ac.jp
地球進化科学専攻　http://www.geol.tsukuba.ac.jp/application.html

Island Arcは，年４回発行されます．最新号のVol. 23 Issue 3が2014年９月に発行されました．日本語要旨をニュース誌と学会ホームページ（http://www.geosociety.jp）にも掲載しています．全文はオンライン（http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1111/(ISSN)1440-1738）で無料閲覧できますので，是非ご覧下さい．

（Island Arc編集委員会）

Vol. 23 Issue 3（September）

［Research Articles］

1．Triassic warm subduction in northeast Turkey: Evidence from the Ağvanis metamorphic rocks

Gültekin Topuz, Aral I. Okay, Rainer Altherr, Winfried H. Schwarz, Gürsel Sunal and Lütfi Altinkaynak

トルコ北東部における三畳紀の暖かい沈み込み：Ağvanis変成岩類からの証拠

テーチス海域におけるペルム紀～三畳紀の沈み込み史では付加体形成は希であり，主に北西トルコからチベットで起きている．本論では北部トルコに分布する三畳紀の付加体であるAğvanis変成岩類の地質，岩石，年代データを報告する．Ağvanis変成岩類は長さ20 km，幅６kmで南南東－北北西走向の菱形地累をなし，東PontidesとMenderes-Taurusブロックの衝突帯に近接した北アナトリア（Anatolia）活断層によって画されている．変成岩類は主として緑色片岩相～緑廉石角閃岩相のメタベイサイト，千枚岩，大理石，少量のメタチャートと蛇紋岩からなり，海洋起源の岩石種と大洋島玄武岩，中央海嶺玄武岩，島弧ソレアイトの特徴を示すメタベイサイトの存在から付加体が変成作用を受けたものと解釈される．これらの岩石には始新世初期の石英閃緑岩，優白質花崗閃緑岩，デイサイトの岩頸や岩脈が貫入している．変成条件は470－540 ℃，～0.60－0.90－GPaと推定される．接触変成帯の外側から採取したフェンジャイト－白雲母についての段階的な$^{40}Ar/^{39}Ar$年代測定から180－209 Maをピークとする年代分布が得られ，変成作用が209 Ma以前に起きたことを示唆する．すなわち，Ağvanis変成岩類は北東トルコにおける三畳紀後期かそれよりやや古い沈み込みを表わしている．推定された温度圧力条件は定常状態にある平均的な沈み込み帯よりも高温であり，現在のカスケードのような高温沈み込み帯であったとするのが最も説明しやすい．これに対して始新世初期の石英閃緑岩岩頸の周囲の接触変成鉱物組合せは，現在の浸食面が始新世初期には深さ14 kmにあったことを示唆しており，変成岩類が再度埋没したことを示す．白雲母のピークAr-Ar年代が一部乱されていることは，埋没と火成活動による加熱によって起きたと考えられ，東PontidesとMenderes－Taurusブロックの間の衝突によって起きた衝上運動に関係しているのであろう．

Key Words : $^{40}Ar/^{39}Ar$ dating, Ağvanis; Eastern Pontides, metamorphism, thermobarometry, Triassic accretionary complex

2．Age of the Taishu Group, southwestern Japan, and implications for the origin and evolution of the Japan Sea

Takashi Ninomiya, Shoichi Shimoyama, Koichiro Watanabe, Kenji Horie, Daniel J. Dunkley and Kazuyuki Shiraishi

長崎県対馬に分布する対州層群の年代とその意義

二宮　崇・下山正一・渡邊公一郎・堀江憲路・Daniel J. Dunkley・白石和行

日本海南西部，対馬に分布する対州層群は，層厚5000 m以上の海成層で，日本海拡大期の情報を供給する重要な地層と考えられている．その年代は，前期始新世から前期中新世まで，ゆっくり堆積した地層と考えられてきた．本研究では，対州層群の岩相層序の再検討を行うとともに，最下部，下部・中部境界，それに最上部の凝灰岩の３試料から，ジルコンを抽出し，SHRIMPによる U－Pb年代測定をおこなった．その結果，対州層群が，17.9－15.9 Maの短期間に急速堆積したこと，対州層群は日本海沿岸に広く分布する同時期の多くの地層群と対比できることが明らかになった．これらの結果は，日本海および日本列島形成史を考える上で重要な知見である．

Key Words : early to middle Miocene, Japan Sea, SHRIMP U－Pb dating, Taishu Group

3. Geochemistry and petrogenesis of the Cretaceous A-type granites in the Laoshan granitic complex, eastern China

Quanshu Yan and Xuefa Shi

中国東部ロウ山（Laoshan）複合花崗岩体中の白亜紀Aタイプ花崗岩類の地球化学および成因

南北中国地塊間の三畳紀縫合帯の東側に分布するロウ山花崗岩体の後衝突期花崗岩について主要・微量元素組成，Sr，Nd，Pb同位体組成を測定した．花崗岩類はアルカリ岩質のAタイプであり，より詳しくはA１花崗岩に細分される．微量元素組成は大洋島玄武岩とエンリッチした中央海嶺玄武岩の中間的な特徴を示し，結晶分化によりBa，Sr，P，Tiに枯渇し，スラブ流体の付加によりCs，Rb，Th，Uに富む．ロウ山花崗岩類の同位体組成はエンリッチしたマントル（EMI）と下部地殻物質の混合を示す．ロウ山A１花崗岩類はEMI的なデラミネートしたエクロジャイト起源物質（沈み込んだ中生代太平洋スラブ流体による付加を受けた）と同地域に先行するＩタイプ花崗岩の融け残りグラニュライトあるいは変成岩からなる下部地殻物質の混合によって生じたと考えられる．混合マグマは主にアルカリ長石の分別を経てロウ山花崗岩体中にAタイプ花崗岩として定置した．

Key Words : A-type granites, Jiaodong Peninsula, Laoshan granitic complex, petrogenesis

4．Migration of a volcanic front inferred from K-Ar ages of late Miocene to Pliocene volcanic rocks in central Japan

Hitomi Nakamura, Teruki Oikawa, Nobuo Geshi and Akikazu Matsumoto

関東山地火山岩年代から制約する火山フロントの移動とマントル構造の変化

中村仁美・及川輝樹・下司信夫・松本哲一

関東山地は，赤城－浅間－八ヶ岳－富士が形成する第四紀火山フロントの前弧域に位置し，新第三紀の火成岩を産する（兼岡ほか，1993）．

本研究では，関東山地の地質学・層序学的調査を行い，火山岩生成年代を決定することで，火山フロントが移動した可能性を検討し，その原因としてのテクトニクスとマントル構造の変遷を議論する．

年代測定から，火山フロントの著しい西側への屈曲は，3 Ma頃生じたことが分かった．北進していたフィリピン海プレートが，その東端のdead endで太平洋プレートの妨げを受け，オイラー極が北に移り，北西へ進路を変更した（高橋，2006）．マントルウェッジはより冷たくなり，フィリピン海および太平洋スラブからの脱水はより深部へ移り，マグマの生成場は，より深部・高温である西側へと移る．その結果，マントル構造とメルト分布が大きく変化し，火山の分布が全体的に西に移り，火山フロントの移動に至ったと考えられる．

Key Words : central Japan, K－Ar ages, Philippine Sea Plate; subduction, volcanic front

御嶽山2014年噴火（速報）

表紙写真提供　**アジア航測株式会社**

解説　**及川輝樹**（産業技術総合研究所活断層・火山研究部門）

岐阜・長野県境に位置する御嶽山で2014年９月27日11:52頃発生した噴火は，戦後最多の犠牲者を出す噴火となってしまいました．お亡くなりになられた方々に対し謹んで哀悼の意を表します．また，被害を受けられました方々には心からお見舞い申し上げます．本稿は，御嶽山の火山活動史と今回の噴火の概要を簡単に報告します．

御嶽山は，本邦第2位の標高（3067m）を誇る，体積が約80 km^3の大型の成層火山である．山体は玄武岩から流紋岩の溶岩・火砕岩で構成される．長く複雑な歴史を持つ火山で，その活動は，約78～40万年前に活動した古期，約12万年前から現在の新期に大きくわけられる（例えば，Matsumoto and Kobayashi, 1995；Kioka at al., 1998）．様々な様式の噴火を行っており，房総半島の上総層群中のB-M境界付近に位置する白尾（びゃくび）火山灰や下末吉海進で形成された海成段丘を覆う御岳第１軽石などを噴出した，大規模なプリニー式噴火もたびたび行っている（小林ほか，1967；竹下ほか，2005など）．完新世における噴火活動は，従来は新鮮なマグマが関与しない水蒸気噴火のみが発生したと考えられてきた．しかし，近年の研究では，複数回のマグマ噴火と水蒸気噴火を繰り返していることが確認され，最近も活動的な火山であることが明らかとなった（及川・奥野，2009；鈴木ほか，2009など）．

記録に残る最初の噴火は，1979年の水蒸気噴火であるが，噴気活動は，山頂南側の地獄谷源頭において，少なくとも250年前から現在まで継続している（及川，2008）．1979年噴火以降，1991年，2007年に極小規模な水蒸気噴火が発生しており，そして今回の噴火に至った．2007年の活動は，2006年12月から山頂直下の地震活動の活発化やGPS測量による地殻変動が検出され，その後，噴気量が増大し2007年３月（推定）に微噴火が発生と段階を追って進展した（Nakamichi et al., 2009）．2014年噴火は，９月10日頃から地震活動の高まりがあった他に顕著な前兆が無かったことが，2007年の活動と異なる．

2014年噴火は，1979年噴火の火口より南側に，新たに形成された複数の火口から発生した（中野ほか，2014）．1979年噴火の噴火口は，1991，2007年の微噴火の火口としても活動したが，今回の噴火に伴って噴気活動の増大や火口からの噴出物の放出などは認められない．2014年噴火は，1979年噴火と同様に水蒸気噴火であり，両噴火の噴出物量は共に100万トン前後と大きく異ならない（宮城ほか，2014；宝田ほか，2014）．しかし，2014年噴火は，1979年噴火と比較して，噴出物の分布は火口付近に厚く，遠方に薄いといった特徴を示す．これは，1979年噴火で認めらなかった顕著な火砕流*の発生や，2014年噴火口付近に小型の火砕丘が形成された（中野ほか，2014）ことと調和的である．今回の火砕流は，山頂南側の地獄谷沿いに約２km，北西の兵衛谷方向に約1.5km流れ下った．表紙写真上の谷沿いに白く変色した部分は，南側に火砕流の流れ下った部分である．その他，報道等の映像資料に基づくと，王滝頂上東側や剣ヶ峰北方及び東側の谷沿いにも火砕流が流れ下ったようであり，それら地域には噴出物が厚く堆積している（中野ほか，2014）．また，山頂付近にも噴出物が厚く堆積した（表紙写真下）．しかし，山頂付近の山小屋の屋根の破損，噴石により空いた穴の密度は，1979年噴火と比べて，大きな差は無いようである．

引用文献：

小林ほか, 1967, 地質学雑誌, 73, 291-308.

Kioka et al., 1998, Earth Science（Chikyu Kagaku）, 52, 464-474.

Matsumoto and Kobayashi, 1995, Chem. Geol., 125, 123-135.

宮城ほか, 2014, 火山学会2014年緊急セッション講演要旨.

Nakamichi et al., 2009, J. Volcanol. Geotherm. Res., 187, 167-177.

中野ほか, 2014, GSJ地質ニュース，3，289-292.

及川, 2008, 地質調査研究報告, 59, 203-210.

及川・奥野，2009，日本地球惑星科学連合大会2009年予稿集，J237-006.

鈴木ほか, 2009, 砂防学会研究発表会概要集，518-519.

宝田ほか, 2014, 火山学会2014年緊急セッション講演要旨.

竹下ほか, 2005, 地質学雑誌，111，417-433.

*2014年噴火で谷沿いに流れ下った火砕物の流れは，樹木を焦がすほどの高温の流れではなかった．しかし，監視カメラ等の映像によると，明らかに重力によって引きずられた流れが発生していることがわかる．ここでは高温・低温を問わずに火砕サージを含めた重力に引きずられて流下する噴出物の流れに対して，広義の用語として「火砕流」を用いる．

表紙写真解説（2014年９月28日アジア航測株式会社撮影）

上：南側から御嶽山を望む．白く噴煙を上げるのが2014年噴火口群．手前に伸びる白く変色した谷は，地獄谷でそこを火砕流が流れ下った．

下：東側から御嶽山山頂の剣ヶ峰周辺を望む．山頂に山小屋と神社があるのが剣ヶ峰で，その周辺は特に厚く噴出物が堆積している．その右側の火口地形が一ノ池で，一ノ池手前の平坦地（火口）が二ノ池．左側の山小屋のある峰は王滝頂上．

院生コーナー

スロバキアの夏
ー上部三畳系石灰岩の調査報告ー

山下大輔（D1）・白水秀子（M2）
熊本大学大学院自然科学研究科

私たちは２年前から，テチス海西部における三畳紀末の環境変動を明らかにすることを目的として，スロバキアに分布する上部三畳系石灰岩を対象に研究を行っている．それに関連して，昨年と今年の夏に現地調査を行ってきた．このような機会がなければ，おそらく一生訪れなかったであろうスロバキアの片田舎での調査は，蒸し暑い日本の夏とはかけ離れた爽やかで充実したものであった．今回はその様子について報告する．

研究の始まり

今回の研究の発端は，２年前，指導教員である尾上哲治先生と研究室の先輩である佐藤峰南さんが，岐阜県の美濃帯チャートからスフェルール粒子を含むイジェクタ層を発見したことに遡る．その研究結果を学会で発表されたところ，スロバキア科学アカデミーのJozef Michalik博士から，Kardolina（カードリナ）の三畳紀後期レーティアンの地層にも類似したスフェルール粒子が含まれているとの知らせがあった．Jozefさんはすぐにサンプルを送ってくださり，著者の一人である白水が薄片観察およびSEM-EDS分析を行った．するとスフェルール粒子は，Kardolinaセクションの石灰岩に普遍的に含まれるウーイドとは明らかに異なる元素を含むことなどが明らかになった．

Kardolinaセクションの石灰岩が堆積したとされる三畳紀後期レーティアンには，パンゲア大陸の分裂に伴う洪水玄武岩（Central Atlantic Magmatic Province：CAMP）の噴出や，現在のフランスに位置するRochechouartクレーターが形成されたことが知られている．そのため，佐藤さんの発見したイジェクタ層と同様，このスフェルール粒子もこれらのイベントに関連して形成されたものではないかという推測から，Kardolinaセクションの石灰岩について詳細に調査することとなった．

スロバキアおよびKardolina

スロバキア（正式名称は，スロバキア共和国）と言っても，日本人にはあまり馴染みの無い国である．そのため，まずはスロバキアについて簡単に紹介したい．スロバキアは中央ヨーロッパに位置する国で，首都はブラチスラヴァである．ブラチスラヴァはウィーンに近いため，日本からブラチスラヴァへは，まずはオーストリアのウィーン空港へ向かう．ウィーンからは高速バスか鉄道に乗って１時間ほどで到着する．ブラチスラヴァは首都といっても東京とは見た目が大きく異なる．街の中心には高層ビルはなく，代わりにヨーロッパらしい古い町並みが残る，小さくてかわいい街である．通貨はユーロで，物価は日本に比べて少し安い．公用語はスロバキア語である．

今回の調査地は，スロバキア北部を横断するTatra山脈の東端に位置するKardolinaセクションである．スロバキアの西端に位置するブラチスラヴァからは鉄道と車を使って東へ約５時間で到着する．Kardolina周辺は，世界遺産にも登録されているTatra山脈へと登るハイカーたちで賑わう観光地となっている．ブラチスラヴァからの鉄道に乗って窓の外を眺めると，広大な緑の牧草地にロール状の牧草が転がっていて，遠くには雄大なTatra山脈が見えるという牧歌的な風景を楽しむことができる．

Kardolinaセクションには，浅海性の層状石灰岩からなるFatra層と，砂岩を含む褐色粘土岩からなるKopieniec層が連続的に露出している．これらの地層は有孔虫化石群集に基づいた年代決定により，Fatra層は三畳紀後期レーティアン，Kopieniec層はジュラ紀前期ヘッタンギアンの地層であると考えられており，これらの地層の境界付近には三畳紀/ジュラ紀（T/J）境界が存在するとされている．つまり，このセクションでは三畳紀後期レーティアンからジュラ紀前期ヘッタンギアンまでの層序が連続的に観察できるのである．

そのため，本研究ではこの期間を通じた炭素・酸素同位体比変動と地層の詳しい年代分布を明らかにすることで，テチス海西部における三畳紀末の環境変動を捉えることを目的とした．

スロバキア調査１年目

2013年８月，スロバキアへ初めての調査に訪れた．調査には尾上哲治先生と私たち２人に加えて，フィールドの案内をしてくださるJozef Michalik博士，そしてJozefさんの学生であるKamil Fekete氏が参加した．Jozefさんは60歳を過ぎた小柄の気さくなおじさんで，長年Kardolinaセクション周辺の詳細な調査を行ってきた． Kamilさんは，Kardolinaセクションにおいて生痕化石などの研究を行っているD１の学生である．我々は，Kardolinaセクションの近くにあるスロバキア科学アカデミーの宿泊施設に泊まりながら，５日間の調査を行った．

まずは一日の流れを簡単に説明する．朝は７時半頃に朝食を食べ，８時過ぎにホテルを出発する．そしてJozefさんの運転する車に乗って，まずは近くのスーパーに立寄り，昼食用のパンやヨーグルトを購入する．再び10分ほど車を走らせると，KardolinaセクションのあるPalenica山の麓に到着する．そこからは徒歩で約２kmの山道を歩いて露頭へ向かう．それから調査をはじめ，17時頃になると調査を終える．下山し，ホテルに戻るとまずはシャワーを浴びて，19時頃に夕飯を食べる．そして20時頃には自由時間となり，23時頃に就寝となる．

１年目の調査内容は，全層準の分析用サンプルを採取することと，スフェルール粒子を含む地層を詳細に記載することであった．サンプルは，薄片観察および炭素・酸素同位体比分析用のものと，コノドント化石の抽出用のものの２種類採取した．とくにコノドント化石に関してはこれまで産出報告がないため，１kgほどのサンプルを多くの層準から採取した．

写真左から，Palenica山の急斜面に露出するFatra層からのサンプリング．Jozef博士とスフェルールが報告される層準にて．Tatra山脈を背に集合写真．

雄大なTatra山脈．

次に露頭の様子を詳しく紹介する．Fatra層は層厚約100 mの層状石灰岩であるが，露頭には一層ごとにペンキで番号が書かれているため，先行研究でのサンプリング層準が容易に把握できる．また，露頭は急な斜面に露出しているのだが，ある程度道が作られているため歩きやすい．これらはすべてJozefさんたちが整備したものである．私たちがサンプリングを行っている最中も，Kamilさんは鍬を使って，露頭の土壌に隠れている部分を掘り返して番号を書いたり，歩きやすいように石灰岩を破壊して道を広げたりしていた．この作業が豪快で，邪魔な石灰岩はどんどん破壊して蹴落としていくため，巨大な石灰岩のブロックがすごい音を立てて何度も山の斜面を転がっていった．巨大な石灰岩を蹴落とすときのKamilさんは得意げで，「ほら，見てて．」といって蹴落とすのだが，日本でやったら絶対に怒られる行為である．しかし，そのおかげで露頭はとても観察しやすかった．

Fatra層ではさまざまな岩相が観察できる．たとえば，ストームによって形成されたと思われるテンペスタイトや腕足類化石の密集層，またサメの糞でできた黒色の泥岩層などである．サメの糞でできた地層は，「サメがコノドント動物を食べていたら，コノドント化石がいっぱい出てくるんじゃないか」という発想のもと，大量にサンプリングを行った（結局はなにも出てこなかった）．そのほかにも，前述したスフェルール粒子が密集した層やスランプ層があったり，T/J境界直前には鉄に富むウーイドを含む赤色の石灰岩層があったりと，岩相変化に富んだ地層であった．

調査の合間の楽しみ

調査の合間の楽しみは，ごはんと夕食後の自由時間である．ホテルの朝食と夕食は毎回，２つのメニューから選択できる．メニューはスロバキア語で書かれているため，毎回Jozefさんにメニューを解説していただいて決める．しかし，実際に料理が運ばれてくるまでは，どのような料理かはわからないため毎回楽しみである．あるときは，大きくて四角いパンケーキがメイン料理として出てきたり，またあるときはハルシュキと呼ばれるジャガイモと小麦粉の団子にチーズソースのかかった郷土料理がでてきたりと，日本とは全く異なる食文化を体験できた．

もう一つの楽しみは，食後の自由時間である．ホテルには地下に卓球台があったため，夜な夜なKamilさんを誘って卓球を楽しんだ．とくにKamilさんは卓球が上手いため，日本人３人はなんとかして勝とうと必死になって汗を流した（シャワーを浴びた後なのに）．その結果，尾上先生が編み出した技が「ジャクエムショット」である．「ジャクエム」とはスロバキア語で「ありがとう」を意味する．「ジャクエムショット」は普通のスマッシュとなんら変わらないのだが，スマッシュが決まったときに「ジャクエム！」と言ったことからそう呼ばれるようになった．今考えるとおかしいが，そのくらい盛り上がっていたということである．

帰国後の分析

１年目で採取したサンプルについては，白水が中心となって薄片観察，酸素・炭素同位体比分析およびコノドント化石の抽出を行った．化学分析用の146サンプルは全て粉末試料にし，京都の総合地球環境学研究所において分析を行った．その結果，レーティアンには４回の炭素同位体比変動があったこと，そしてその層準では砕屑性石灰岩から細粒な石灰岩へと岩相が変化することなどが明らかになった．同位体が変動する層準は，スフェルール粒子密集層とは少しずれているため，両者の関係はいまだ不明である．また，これまでFatra層の年代は有孔虫化石によって決められているため，コノドント化石によってより詳細に年代分布を明らかにしたかったのだが，コノドント化石は一つも見つけられなかった．これらの結果については，今年の９月の地質学会において白水が発表した．

スロバキア調査２年目

今年の８月，２回目の調査を行った．今回の調査の目的は，1年目にサンプリングできなかった層準を補完することと，層状石灰岩に含まれる石灰質頁岩，およびT/J境界付近の粘土岩層を細かくサンプリングすることである．

今年の夏はヨーロッパ各地で雨が続き，調査期間中もほとんどが雨であった．また，調査中に著者の一人である山下が体調を崩し調査に参加できなくなったり，Jozefさんが崖から転落し，肩の骨を折ったりと2年目の調査はアクシデントの連続であった．地質調査では体調管理と危機管理が大切であると改めて実感した．

スロバキアの自然

スロバキアの調査を通して一番印象に残っているのは，日本とはまた異なる自然の美しさである．高く美しい山々が連なるTatra山脈は，澄んだ青空によく映えていた．２年目の調査ではあいにくの雨模様であったが，日本のような湿度は感じられず，雨上がりもとても清々しく感じられた．調査地であるKardolinaセクションは，急斜面が続くため歩くのが怖いと感じることもあった．しかし，露頭の欠損なく続く明瞭な石灰岩や，ところどころ現れる平坦な場所でゆっくり見渡す景色は，ここでしか見られなかったと思う．今までヨーロッパを訪れたことがなく，スロバキアはどんな国だろう，と不安に感じていたが，壮大な自然とのんびりとした雰囲気の可愛らしい街並みをもつスロバキアが，今ではとても好きになった．

初めての海外調査

著者の一人である白水にとっては初めての海外調査ということで，コミュニケーションが大きな課題であった．自分の思うことが伝えられず，周りが何を話していてどうして笑っているのかわからず，悔しさや不甲斐なさで，毎日部屋に戻って一人反省会をしていた．しかし，拙い言葉でもいつも耳を傾けてくれ笑顔で待っていてくださったJozefさんをはじめ，沈黙が続いたときはいつも話題を提供してくださったKamilさん，今回のスロバキア調査のきっかけをくださりいつも支えてくださった尾上先生のおかげで，悔しさも貴重な経験となり，コミュニケーションや学び続けていく姿勢の必要性を改めて感じることができた．スロバキアで過ごした時間は，きっと忘れられないものになる．

最後に

もし大学院に進まなければ，海外調査に行くこともなかっただろうし，出逢うことができなかった方々，見ることができなかった景色があったと思う．様々なタイミング･偶然の重なりがあって，Jozefさんと，Kamilさんと出逢い，尾上先生とともにKardolinaを訪れることができた．Tatra山脈周辺は，日本人はなかなか訪れる機会はないかもしれないが，T/J境界に興味のある方やスロバキアの雄大な風景を楽しみたい方にはぜひお薦めである．最後に，スロバキアで全てのサポートをしてくださったJozef Michalik博士とKamil Feketeさん，そしてこの記事の執筆の機会を与えてくださった編集委員の佐藤峰南さんにこの場をお借りして御礼を申し上げたい．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名で行っています．原稿は5000字以内，図・写真３点以内を目安に，e-mailでいただければ幸いです．

13nd403y@mcs.ibaraki.ac.jp　菅谷真奈美（茨城大）
kouzu_0419@geol.tsukuba.ac.jp　高津翔平（筑波大）
12ND404L@mcs.ibaraki.ac.jp　細井　淳（茨城大）
3SC12024G@s.kyushu-u.ac.jp　佐藤峰南（九州大）

☆関東支部

報　告

清澄フィールドキャンプ：実施報告

2014年８月25－31日にかけて，今年も関東支部は地質調査の基礎的な訓練を，京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地質学鉱物学教室地球生物圏史分科の御支援・御指導のもと，東京大学千葉演習林・清和県民の森周辺にて実施しました．

今年は昨年とはうって変わって雨模様の１周間でしたが，昼間は現場，夜は夜業でこってり絞るという一連の作業は変わりません．また，その日歩いた部分の柱状図ができるまでは寝られない（寝かせない）のも同様です．この作業が毎日，日付が変わる頃まで続くので，教える側も教わる側も真剣です．宿舎の都合もあり，夜業は京都大学と別々でしたが，我々関東支部メンバーが京都大学のサポートのもと実施しました．

今年度から実習後のまとめ作業（断面作成・ステレオネットの操作訓練）を現地にて行うなど，更に修行の度合いを増した６泊７日の実習でしたが，参加者は誰一人としてリタイアすることなく無事修了証を手渡すことができたのは主催者として大変うれしいことです．参加した学生諸君は今後ひるむことなくフィールド調査にでかけていくことができると確信しております．

開催にあたり，京都大学の生形貴男准教授，成瀬　元准教授，佐藤活志助教など地球生物圏史分科研究室の方々から多大なるご支援を受けました．また，東京大学千葉演習林の方々ならびに千葉大学理学部金川久一教授，亀尾浩司准教授にも機材・宿舎の調整など，実施にあたり多大なるご協力をいただきました．以上の方々のご支援で，今年もフィールドキャンプを成功させることができました．ここに厚く御礼申し上げます．

（関東支部幹事　**河村知徳**　石油資源開発（株））

＜参加者の感想＞

参加前から，ついていけるかとても不安でした．そして案の定ほとんどついて行くことが出来ず，知識不足もあって自分の未熟さを非常に痛感させられた１週間でした．しかしながら先生方の丁寧かつわかりやすいご指導もあり，調査中の露頭柱状図の作成の仕方やフィールドノートの記載の仕方などを教わることで今後の自分の大きな糧になったことは間違いありません．（**大田晃三郎**　日本大学３年）

天候には恵まれなかったものの，“目から鱗が落ちる”という言葉がぴったりな数日間が，私にとっての清澄フィールドキャンプでした．地質調査や実習の経験に乏しく，基本的なことから習得できる機会を望んでいましたが，注状図や露頭断面の作成などの初めてやる作業は手こずることも多く，現地での記載が大切であることを身をもって知りました．他の人が同じ露頭をどのように記載しているのかを拝見することも，非常によい勉強になりました．自分の野帳でも工夫できることが，まだまだ多くありそうです．

側方に変化する岩相，鍵となる凝灰岩，これらの特徴を観察できる全面露頭は清澄の素晴らしい魅力です．この清澄で学んだことを機会に，知識を増やし，経験を重ねたいと思います．（**伊東勇貴**　専修大学修士１年）

フィールドにおいて，スケッチの際に着目する視点（地質構造や粒度など）や，あらわれる鍵層の予測，そしてときには露頭のクリーン方法まで，地形学のフィールドワークとは違った調査を体験し，ときには戸惑いつつも学習することができました．さらに夜業では，スケッチにおける彩色や墨入れの方法から地質断面図やシュミットネットへのプロット，より重要な事象や構造の取捨選択など，フィールドワークだけでなく夜業の重要性も学ぶことができました．このフィールドキャンプを通して，様々な事象を積み上げて１つの成果を創造する地質調査の楽しさと難しさを肌で感じました．（**黒澤　兆**　専修大学修士２年）

工学部出身で地質の知識はほとんどありませんが，就職先で地質調査の必要性を感じたため参加させて頂きました．初日は何もわからないまま，限られた時間の中で露頭柱状図を書く事で必死でした．宿舎に帰れば夜業が始まり夜遅くまで続きました（要領が悪いからですが…）．ハードなスケジュールでしたが実習仲間たちも真剣だったのでむしろ充実感があり楽しかったです．実習を進めていくうち次第に要点が見えるようになり，自分の描く柱状図も野外調査も少し上達した気がします．（**岩本直也**　岐阜大学修士２年）

海洋学部に所属しているので，海洋調査のことについては学び経験してきたものの陸上の調査については学んでこなかったため，地質調査の仕方を基礎から学ぶために参加しました．クリノメーター，ルートマップ，柱状図，地質図などをどのようにして扱うのか，またフィールドに出た際にどういったことに気を付けて，調査していけばいいかということを一週間という短い間でしたが経験することができました．特に鍵層であるテフラの見分け方は，一見簡単そうでしたが実際にやってみると非常に難しく大変でした．このキャンプを経験し，地質調査というのがどういったものなのかその一端を学ぶことができました．ここで学んだことを就職後にも生かしていきたいと思います．（**鶴田達也**　東海大学４年）

集合写真（実習最終日の夕方，宿舎前にて撮影）．左より鶴田（東海大），黒澤（専修大），岩本（岐阜大），伊藤（前支部長），河村（支部幹事），大田（日本大），笠原（首都大），伊東（専修大）．

2015年度の会費払込について

一般社団法人日本地質学会運営規則により，次年分の会費を前納下さいますようお願いいたします．2015年４月～2016年３月の会費額は下記の通りです．

会員資格	2015年４月～2016年３月分会費
正会員	12,000円
〃　（院生割引）※　要申請	8,000円
〃　（学部学生割引）※　要申請	5,000円

※学部に在籍している学生の方，定収のない大学院生（研究生）の方で，それぞれ所定の書式で申請をされた方にのみ割引会費を適用します．なお，2014年度までの学部学生割引・院生割引会費についての申請は終了しておりますので，2015年度会費にのみ適用となります．

１．自動引落を登録されている方の引き落とし日は12月24日（水）です．

2015年度分会費の引き落とし日は12月24日です．請求書ならびに引き落とし通知の発行は省略させていただきますのでご了承下さい．これより以前に不足額がある場合には加算され，余剰金がある場合はその分を減額して引き落としとなります．通帳には金額とともに「チシツカイヒ」あるいは「フリカエ」,「SMBC」などと表示されますので，必ずご確認下さい．

２．自動引き落としをご利用下さい．

新たに会費の引き落としをご希望の方は，巻末の振替依頼書を11月10日（月）までに事務局までお送り下さい．また，すでに引き落とし手続きが完了している方で，学部学生割引と院生割引会費の適用を希望される学部生，院生（研究生）の方は11月17日（月）までに学部学生割引会費・院生割引会費申請書をご提出下さい．期日までにご提出いただけない場合は，正会員の会費で引き落としがかかります．ご了解下さい．

３．上記以外の方（お振り込み）

12月中旬頃までに請求書兼郵便振替用紙をお送りいたします．折り返しご送金くださいますようお願いいたします．

一般社団法人日本地質学会　会計委員会

一般社団法人日本地質学会運営規則

第２章　第７条（会　費）

学会は会費の年額（４月１日～翌年３月末日）を次のように定め，会員は当該年度の初日までにこれを支払うこととする．入会の際には当該年度の年額を支払うこととする．

(1) 正会員：12,000円
　ただし，大学学部ならびに大学院に在籍するものは，毎年度ごとに所定の申請書を提出した場合，それぞれ学部学生割引と院生割引を適用し，年会費を5,000円ならびに8,000円とする．これらに準じる身分の学生についても同様の扱いとする．

(2) 賛助会員：１口25,000円，２口以上
　ただし，諸般の事情により理事会が認める場合は，１口とすることができる．

2　会費の変更は，理事会の議決により，総会の承認を得なければならない．

3　会員は，上記に定める会費を当該会計年度の前に一括納入しなければならない．ただし，やむを得ぬ理由により理事会が認める場合は，分納もしくは減免することができる．

4　会費を滞納した会員については次の処置をとる．

(1) 滞納期間が６ヶ月以上となった場合には，地質学雑誌等の会誌の送付を停止する．

(2) 滞納会費が納入された場合には，送付を停止した地質学雑誌等の会誌の送付を再開する．ただし，会誌の在庫の関係で送付ができないことがある．

(3) 地質学雑誌への投稿，講演会での講演を制限することがある．

(4) 会費支払いの督促を受けつつ，正当な理由なく，かつ，退会届を提出せぬままに会費を滞納した会員は，滞納４年度目をもって，理事会の議決により会員の資格を喪失させ除籍とする．

学部学生・院生（研究生）の方へ「割引会費申請」について

2015年度（2015.4～2016.3）学部学生割引・院生割引会費の受付開始

一般社団法人日本地質学会運営規則により，学部学生・院生（研究生）については，本人の申請によりそれぞれ割引会費が適用されます．つきましては，次年度（2015年度）の会費についての申請受付を開始いたしますので，該当される会員は下記の書式にて申請書を提出してください（郵送に限る）．**会費請求書発行の都合もありますので，請求書発行前の受付〆切りは11月17日（月）といたします．とくに口座自動引落で会費を納入されている方は，この期日までに申請書をご提出下さい．なお，これまで（～2014年度）の学部学生割引・院生割引会費についての申請受付は終了していますので，2015年度分の申請のみ適用となります．**

★注意★

毎年更新となりますので，次年度会費について該当する方は，必ず申請して下さい．

2015年度から社会人になるかたは，割引会費の申請はできません．

送付先：〒101-0032　東京都千代田区岩本町2－8－15井桁ビル6階
一般社団法人日本地質学会

2015年度一般社団法人日本地質学会
学部学生割引・院生割引会費申請書

一般社団法人日本地質学会　御中

私は，運営規則第2章第7条第1項（1）に基づき，2015年度会費の

学部学生割引　・　院生割引　（いずれかに○）

を申請いたします．

申請日　　年　　月　　日

会員番号：

会員氏名：

現在の所属・学年：

大学	学部　　学科	年在学中
大学大学院	研究科 専攻	前期 ・ 後期 年在学中

2015年4月からの所属：（現在の所属と同じ場合には「同上」でも可）

大学・大学院名	学部学科・研究科専攻名

上記，本学の学生につき，学部生・定収のない院生（研究生）であることを証明いたします．

指導教官（等）

所属：

氏名：　　印

請求書発行前受付〆切

2014年11月17日（月）

学　会　記　事

一般社団法人日本地質学会の議事録を掲載しています．

一般社団法人日本地質学会 2014年度臨時総会議事録

以下のとおり，2014年度臨時社員総会を開催した．

日　時　2014年９月13日（土）14：30－14：45
会　場　鹿児島大学共通教育棟１号館121号室（鹿児島市郡元１-21-35）

○臨時総会開催にあたり本日出席の代議員から，議長として福冨幹男代議員を選出した．
○議長は審議開始に際し，書記として細井淳代議員ならびに斎藤哲代議員を指名し，また，同時に両名を議事録署名人とした．

議長は，本日の出席者数を確認し，総会定足数である代議員の過半数62名をこえる出席者があるので成立している旨宣言し，議事に入った．
代議員（＝社員）総数123名　　議決権総数123個
出席者数（委任状，議決権行使者含む）83名
この議決権総数83個

出席役員　代表理事（会長）：井龍康文　理事：渡部芳夫（副会長）　天野一男　ウォリスサイモン　上砂正一　小山内康人　川端清司　後藤和久　齋藤　眞　坂口有人　佐々木和彦　沢田　健　杉田律子　竹内　誠　千代延俊　奈良正和　平田大二　廣木義久　星　博幸　保柳康一　松田達生　松田博貴　山田泰広
以上　理事23名

議案　「理事の辞任による後任理事の選任」
齋藤常務理事より，石渡明理事ならびに高木秀雄理事辞任による後任理事の選任について，定款21条１号ならびに選挙規則第５条10項による選任手続きにもとづき，理事選挙次点の市川八州夫氏ならびに次々点の小宮剛氏を後任理事候補者として提案した．
本議案については，特に質疑応答がなく，提案どおり全会一致で承認された．
なお，議長は，本臨時総会に出席の市川八州夫氏，小宮剛氏に対し理事就任を確認し，両氏は就任を承諾した．
＊上記２名の新理事の任期は2014年９月13日～2016年度総会の日までとなる．

2014年９月13日

以上，決議を明確にするためこの議事録を作成し，議長および出席代議員，理事がこれに記名，押印する．

一般社団法人日本地質学会2014年度臨時総会
総会議長　福冨幹男
議事録署名人
代 議 員　細井　淳
代 議 員　齊藤　哲
代表理事　井龍康文
理　　事　齋藤　眞

日本地質学会2014年度 第２回理事会議事録

日　時：2014年９月12日（金）15:00－18:00
会　場：宝山ホール　第５会議室（鹿児島市山下町５番３号）
出席役員　理事（35名）：天野一男　安藤寿男　安間　了　井龍康文　ウォリス サイモン　上砂正一　海野　進　緒方信一　亀尾浩司　川端清司　後藤和久　斎藤　眞　榊原正幸　坂口有人　佐々木和彦　佐野弘好　沢田　健　杉田律子　竹内　誠　竹下　徹　千代延俊　内藤一樹　中澤　努　奈良正和　原山　智　久田健一郎　平田大二　廣木義久　星　博幸　保柳康一　松田達生　松田博貴　矢島道子　山本高司　渡部芳夫
オブザーバー　石渡　明
欠席役員　理事（13名）：有馬　眞　小山内康人　笠間友博　川辺文久　清川昌一　小嶋　智　菖蒲幸男　高橋正樹　三次徳二　宮田隆夫　向山　栄　山田泰広　山路　敦
監事（２名）：青野道夫　山本正司
その他出席者 事務局：橋辺菊恵
＊成立要件：理事総数48名の過半数25名　本日の出席者35名で本理事会は成立．
＊議決：出席者の過半数18名
＊書記２名の選出：後藤理事および亀尾理事が選出された．

報告事項
１．理事会メール審議（2014/８/５）議決事項の確認，議長より報告
１）辞任理事の後任選任に関し，臨時総会開催についてのメール審議を行い，全員一致で開催をきめた．開催日は９月13日，鹿児島大学において開催．

２．執行理事会報告
１）５月理事会以降，６月，７月，８月執行理事会要点ほか（斎藤常務理事）
2014-６，７，８月の執行理事会議事録に基づき，後ほど議論される点を除いて斎藤常務理事から概略について説明があった．
・今回の大会で，ロンドン地質学会とのシンポジウム開催のため，イギリス側の笹川財団から助成を受けている旨の報告があった．
・国際交流委員会から来年の信州大会でも国際シンポジウムを増やすなどの説明があった．
・次期アイソトープ・放射線研究発表会の運営委員候補者の推薦願いがあった．
・「一家に一枚」ポスターは不採択であったが，来年もチャレンジする旨の説明があった．
・高校地学を巡る最近の動向について，執行理事会で議論した．
・自然史学会連合からの要望書の連名希望については，辞退し，その後，連合としても要望書の提出は取りやめたことについて説明があった．
・鹿児島大会への学術交流協定締結国（タイ，韓国，モンゴル，イギリス）から代表者を招待している旨，説明があった．
・ジオパーク支援委員会の報告があった．新たに，立山黒部（富山），南紀熊野（和歌山），天草（熊本）の３地域が認定され，JGN加盟は36地域となった．
・鹿児島大会について文部科学省記者クラブならびに鹿児島政記者クラブにプレスリリース（投げ込み）をした．

３．理事および委員会等報告
１）運営財政部会報告（緒方理事）
・会員動静,その他
現在会員数　3,912名．
緒方理事から予算関係について，会員の90%の会費を徴収済みであること，７月段階で１/３程度の支出を行っていることの報告があった．
２）学術研究部会
・行事委員会報告（竹内理事）
市民公開行事に警報発令時における対応について，すでに対応指針は作成したが，今後さらに大学等の基準を参考に詳細なマニュアル作成を検討予定．鹿児島大会の概要説明，また来年の信州での大会は，大会委員長：公文富士夫,事務局長：保柳康一，巡検準備委員長：原山　智，案内書編集長：小嶋智の各会員が決まったことが報告された．2016年東京大会は，大会委員長：高橋正樹，事務局長：笠間友博，巡検担当：大坪　誠・亀尾浩司（案内書編集）の各会員が決まっている．
３）編集出版部会
・Island Arc　編集委員会報告（海野理事）
海野理事から編集状況の説明があり，IRの総ページ数は増加し，2009年水準に戻っているが，IPが１程度で伸び悩んでいることが報告された．
・企画出版委員会（保柳理事）
保柳理事から，箱根たんけんマップを増刷したこと，長瀞探検マップの現状（査読→著者戻し）について説明があり，その後に続く企画を募集中であることが報告され

た．そのほか，以前からの企画で滞っている，海洋地質基準の出版見通しや地質用語集についての今後の扱いについての報告があった．

4）125周年事業準備委員会報告（矢島理事）
→　審議事項へ

4．その他

1）パブリックコメントへの対応について
　井龍会長から，この間に地質学会から提出した3件のパブリックコメントについて説明があった．

・研究不正に関するガイドラインのうち，一次データについては次回の理事会で議論を行う予定である旨が示された．
・学会としては今後も，学術的立場からのパブリックコメントを出す方針である．
・なお，出席理事から液状化を始めとして地震を起因とする現象について地質学会としてコメントを出す必要があるという意見があった．

2）IGCP：安藤理事

・IGCP608（白亜紀アジア西太平洋生態系）：昨年4月に採択され，2017年まで行う．去る9／4－6に早稲田大学で国際会議を行った．参加者84名（外国人参加者は13カ国，39名）．セッションは6つ開催され，巡検では，双葉層群，那珂湊層群および銚子層群の見学を行った．

3）環境地質部会（上砂理事）

・地質汚染についての技術研修会の報告があった．

4）理事の辞任届提出（7/15付）について

・同日付で石渡理事，高木理事の辞任が成立．現在，理事総数は48名．
・石渡前理事から，辞任および新たに任命予定の原子力規制委員についての挨拶があった．

審議事項

1．県の石について

　井龍会長から現在募集中の県の石についての経過報告，ならびに各県に対するアンケート結果に基づいて説明があった．

・8月に募集開始，10月31日〆切り，11月1日から選考開始の予定．ただし，鹿児島県のみ今回の学会開催を記念して先行して選定することとし，執行理事会であらかじめ検討した．
　候補としては，岩石：シラス（主に入戸火砕流堆積物），鉱物菱刈金山の金鉱石，化石：甑島・獅子島の白亜紀動物化石群，とした．
　なお，選考対象とする範囲は，岩石（未固結のものも含む），鉱物（鉱物・鉱石），化石(必ずしも単一の分類群でなくても良い)であるとしたこと，および今回に関しては鹿児島県関係との事前打ち合わせは行っていないことが説明された．
・審議において，地質学的にレッドリストにあがるようなものを参考にする必要があること，各県一つで良いのかなどについての意見が出された．後者については，原則，各県一つにするが，選に漏れたものの扱いなどについては，今後考える方向性が示された．
・また，今後の選考方法に関しては10月の執行理事会で議論し，案を作成して，理事会に諮るという方針が示された．
・審議の結果，選考範囲，鹿児島県の岩石，鉱物，化石，および今後の選考予定について承認した．

2．機関リポジトリの問題

　井龍会長から表題についての概要説明があった．審議では，地質学会が著作権を保持している論文を逆にリポジトリに挙げるという場合の問題はどうなのか，法的な解釈はどうなっているのかについて疑問が出された．今回の問題に対する当面の対応としては，ニュース誌等で，リポジトリでの公開を先に延ばすことを勧める注意喚起をすることで了承を得た．なお，学会側の対応については，法的な専門家の意見を聞いた上で，12月の理事会で改めて議論することとなった．

3．125周年記念行事について

　矢島理事から委員会報告と審議内容の説明があり，125周年記念事業検討委員会とした委員体制と活動予定については提案の通り承認された．活動内容については，災害等に対する地質学的手法を用いた対応など，地質学（会）の重要性について強調するような事業を行うべきであるという意見があった．委員：矢島道子委員長・天野一男．石渡　明・永広昌之・緒方信一・佐々木和彦・佃栄吉・宮下純夫

4．編集規則類の改正について

　山路担当理事に代わり斎藤常務理事から説明があり，以下の規則変更は原案どおり承認された．

・「細則3．出版印刷費用に関する細則」(1)の改正
・「投稿編集出版規則」D. 論文の掲載b～d項の改正
・編集に関する各規則に「本規則（細則）の変更は理事会の承認を得る」の文言を追加する．

5．論文著者の貢献の明記について

　井龍会長から表題の概要説明があり，地質学雑誌の論文中で著者の役割について明記をすることについて審議が行われた．投稿時に申告させるのはどうか，あるいは明記することを導入したとしても不正防止になるかどうかはわからないなどの意見があった．執行理事会でさらに検討し，改めて議論することとなった．

6．年会開催関係：2017年年会開催地は，四国支部担当で愛媛大学を中心に開催することが承認された．

7．その他

1）2015年度総会開催日，第3回理事会の開催日の決定について
　斎藤常務理事から説明があり，下記の通り日程が承認された．
　総会　2015年5月23日（土），第3回理事会　2014年12月6日（土）

2）運営規則の改正
　緒方理事から，会費滞納を伴う退会および除籍に関する運営規則の改正について提案説明があり，文言の微修正のうえ，認められた．

・運営規則第2章　第5条に6項（退会の手続き関する項目）を追加
・運営規則第2章　第7条4項4号の除籍に関する文言の改正

3）国際地学オリンピック三重大会への協賛金の拠出について
　久田理事から配付資料に基づき，地学オリンピックの概略ならびに三重大会の予算獲得状況に関して説明があった．地質学会としての国際地学オリンピックへの協賛（拠出金）については，執行理事会で具体的に審議することを承認した．併せて，これまでの支援の結果として，オリンピックにて優秀な成績を収めた方の進路についての情報を可能な限り開示することを求めた．

4）地質災害委員会の人事と今後の方針について
　斎藤常務理事から委員会体制および委員会の基本方針について説明があった．委員は支部からと関係部会からの選出となる．委員会体制および基本方針等について承認された．
　委員会委員：斎藤眞委員長（再任），後藤和久（委員長代理），川村信人（北海道），越谷　信（東北），本田尚正（関東），野沢竜二郎（中部），三田村宗樹（近畿），西山賢一（四国），奥村晃史（西日本），黒田登美雄（第四紀），安藤　伸（応用地質），木村克己（地域地質），千葉達朗（火山），上砂正一（環境地質）

以上

以上，この議事録が正確であることを証するため，議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する．

2014年10月10日
一般社団法人日本地質学会
理事会議長　榊原正幸
代表理事：会長　井龍康文
以下役員名省略

2014年度
第２回執行理事会議事録

期　日：2014年７月12日（土）13:00－17:00
場　所：地質学会事務局
出席者：井龍会長　山本副会長　渡部副会長
　斎藤常務理事　坂口　ウォリス　緒方
　杉田　竹内　平田　廣木　保柳　松田
　山路　（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：海野　中澤　星
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者14名，委任状　３名，合計17名の出席.
＊前回議事録が承認された

審議事項

１．理事の辞任及び後任就任にかかわる臨時総会開催の件（斎藤）
理事２名から辞任の意向があったことに伴い，理事交代の手続きを進める．前回の理事選挙の補欠２名が繰り上げ当選となる．理事の選任は総会での議決が必要なので，理事会での臨時総会開催の審議（メール審議）をおこない，鹿児島大会に合わせて臨時総会を開催する方向で調整する．臨時総会は，９月13日の昼を予定.

２．機関レポジトリの問題（井龍）
機関レポジトリにて公開された学位論文と同じ内容の論文が投稿された場合の対応が問題提起された．複数の機関レポジトリにおける公開に関する契約内容を検討した．顧問弁護士と相談して日本地質学会としての対応を詰める．また，著作権に関する理解不足によって混乱が生じているようなので，今回の問題の注意喚起を行い，著作権に関するQ&Aを整備する.

３．研究不正に関するパブリックコメント（渡部）
研究活動における不正行為の対応に関するガイドラインの策定が文部科学省で進められている．研究プロセスにかかる試料の保存など地質学特有の問題点を中心に学会としてコメントする．その際に理事会にもメールで問題提起し意見を集める.

４．「地震に関する総合的な調査観測計画について」のパブリックコメントの検討（井龍）
井龍会長より学会としてのコメント案が示され，これを中心に検討した．専門部会にも意見収集を依頼してあり，これをまとめてコメントを提出する.

５．各県の岩石・鉱物・化石に関して都道府県（広報課）へのアンケートを実施（井龍）
全国都道府県にアンケート調査を実施中（８月８日締切）.
アンケートの返信（７/11現在）17通返信があり，県の石を定めている県はない．県の著名な石や岩を挙げてきたのは12都道府県，また，県の石としての候補を挙げてきたのは３県あった．アンケートの結果を踏まえて，今後は一般からの意見公募，支部および理事にも練ってもらう．また，９月の支部長会議でも検討する．市民公募については，募集開始をプレスリリースすることとした.

６．ネット地学部“ちーとも”現状報告と提案（坂口）
2012年の開設時にポスター配布によって，滑り出しが良かったが，ここ最近は新規加入数も活動度も鈍ってきていることが示され，ビラ配布による広報活動によって新規加入者の増加を図りたいと提案された．ビラ配布による新規加入者の増加を図るとともに，メルマガを定期刊行して既存メンバーの活発化を促すこととした.

７．編集細則．規則の改正について（山路）
山路編集委員長より次の三点の改正が提案された．(1) 同一著者による同号掲載の制限を撤廃する．(2) ただし「講座」の場合は，連載初回のみ２編載せることを可能とする．(3) 著者負担金に関する文言の修正．以上の提案に対して文言修正の上，了承された.

８．論文著者の貢献の明記について
複数著者の論文の場合に，各著者の貢献を明示するジャーナルが増えてきており，様々な分野の動向を情報交換した．地質学会としての対応は議論を重ねることとした.

９．その他
１）連合のプログラム委員の推薦依頼があり，候補者を検討し，本人に諾否を問い合わせることとした．連絡〆切りは８/24.
２）前任者より，次期のアイソトープ・放射線研究発表会の運営委員の交代要請があった．渡部副会長および斎藤常務理事が候補者を選ぶこととした.
３）国際学術交流招待者の旅費に関して
学術大会への招待に関して，滞在日数が予定より長い希望についても負担することを了承した.
４）学会HPに掲載（Q&A）の地質災害に関して，代表的地質災害の基礎を解説するなど，ページを整備することとし，広報委員会および応用地質部会が対応する.

報告事項

１．全体的報告
・大学評価・学位授与機構より．機関別認証評価に係る専門委員（平成26年度実施分）に当学会からの推薦者1名を決定した報告あり（氏名は非公表の要請）.

２．運営財政部会：総務委員会（緒方）
＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
１．平成27年度笹川科学研究助成の募集．学術研究部門（募集期間10/１－15）→HP，geo-flash，News掲載
２．沖縄協会より，「第36回沖縄研究奨励賞」の公募（７/15－９/30，学会〆切８/29）→HP，geo-flash，News掲載
３．朝日新聞文化財団より朝日賞の推薦依頼（〆切８/29，学会〆切８/８）→HP，geo-flash，News誌に掲載
４．東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の公募（10/10〆切，学会〆切８/29）→HP，geo-flash，News誌に掲載
５．東京大学海洋研究所より，学術研究船「白鳳丸」の平成28・29・30年度共同利用募集，研究企画調整シンポジウムの開催→HP，geo-flash，News誌に掲載
６．第30回ゼオライト学会研究発表会（11/26－27．東京）の協賛を承諾
７．第５回日本ジオパーク全国大会（南アルプス大会．実行委員長伊那市長）の後援を承諾
８．環境地質部会（田村会員）より．第24回環境地質学シンポジウム（地質汚染・医療地質・社会地質学会主催）の共催をする旨報告あり.
９．第12回高校生科学技術チャレンジ（JSEC2014）の後援を承諾．ならびにJSEC2013の事業実施報告があった.

＜その他＞
１．学術著作権協会より．管理委託契約約款変更通知ならびに委託登録内容（2013年度）の確認あり.
２．広島大学地球惑星システム学専攻の教授の公募（８/29〆切）
３．挨拶状：地盤工学会（会長：東畑郁生）．石油資源開発㈱（社長：渡辺　修）
４．総務省から経済センサス・基礎調査．商業統計調査（国勢調査のようなもの）

＜会員＞
１．今月の入会者（75名）氏名は別紙参照
正会員（15名）：
正〔院割〕会員（53名）〕：
正〔学部割〕会員（７名）〕：
２．今月の退会者　正会員（８名）：相原悠平，伊藤良永，赤塚正明，高梨　正，荷福　洸，矢作智隆，富岡典夫，宮崎智美
３．今月の逝去者：なし
４．５月末日会員数
賛助27：，名誉65：，正会員3,750（正会員：3,628，正会員（院割）：114．正（学部割）会員：８）合計　3,842（昨年比－45）

＜会計＞
・学術交流協定を結んだ学会の招待者の経費概算
交通費　４学会　１名　　約30万円？
宿泊費　８名？　　32泊　　約34万円（42,000円/１名）
昼食会　13～14名？　４万円？
・国際賞（研究奨励費から支出）　１名
交通費　３泊　120,000円？

３．広報部会：広報委員会（坂口・松田）
・「一家に１枚」ポスターは昨年と同様「自然災害－正しく知り．正しく恐れる－」をブラッシュアップして提案した．７/11に，残念ながら不採択の通知があったが，講評は悪くなかったので，来年も同じテーマで

の提出を検討する．

4．学術研究部会（ウォリス・竹内・中澤）
(1) 行事委員会（竹内）
1）年会準備状況報告
・鹿児島大会
発表数　602件：口頭370件．ポスター232件
会場費：約40万円（80万円の学会割引）の予定
・2015信州大会実行委員会体制および巡検コース案
・2016東京大会実行委員会体制
・台風等自然災害時の対応，とくにアウトリーチイベントの際の対応が話し合われた．
2）公開講演会（5/24）の報告（斎藤）
たいへん好評であったので，CPD付与を含めて今後も推進したい．
(2) 国際交流委員会（ウォリス）
・学術交流協定を結んだ学会の招待者
韓国：2名　モンゴル：1名　タイ：3名
イギリス：3名？
・鹿児島大会に海外からの参加問い合わせがあったが，実際にはまだ参加登録はされていない．
(3) JIS．標準担当（中澤）

5．編集出版部会（山路・海野・保柳）
(1) 地質学雑誌編集委員会（山路）
1）編集状況報告（7月10日現在）
・2014年投稿論文　総数43編［総説3（和文3）・論説21（和文21）・ノート1（和文1）・報告5（和文4・英文1）・口絵4（和文2・英文2）・巡検案内9］
・査読中　23編　　受理済み　6編（うち特集号3）
・120巻7月号：論説2・報告1（約35頁，校正中）
(2) アイランドアーク編集委員会（海野）
・編集状況報告
(3) 企画出版委員会（保柳）
・箱根たんけんマップ．修正の上．第2刷印刷中
・長瀞たんけんマップ．査読結果は，小中学生には難しすぎるので，大幅修正．委員会で査読結果を検討中．なるべく早く著者へ戻す予定．
・JAMSTEC国際シンポジウム参加者の見学に城ケ島のリーフレットを大量購入．外国人参加者へは英訳して使用したいとのこと．参加する方の分のみなら構わないと答えた．
・三浦半島マップは進捗なし．

6．社会貢献部会（平田・杉田・廣木）
・秋季地質調査研修会の実施予定については，11月25日からを予定している．

7．地学オリンピック支援委員会（久田）
国際大会に向けて準備中．キャラクターデザイン募集中．地震火山サマースクール（島原ジオパークにて8月2-3日）にも地学オリンピックが参加する．

8．地質災害委員会（斎藤）
南木曽の災害への情報掲載

9．地質技術者教育委員会（山本）
鹿児島大会で夜間小集会を予定．

以上

2014年7月30日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会　長（代表理事）　井龍康文
署名人　執行理事　　斎藤　眞

2014年度
第3回執行理事会議事録

期　日：2014年8月30日（土）13:00－17:30
場　所：地質学会事務局
出席者：井龍会長　山本副会長　渡部副会長（13:50退出）　齋藤常務理事　ウォリス　緒方　杉田　竹内　中澤　平田　廣木　星　保柳　松田　山路
オブザーバー　川辺文久理事（16:00～）
（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：海野（井龍）　坂口
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者15名，委任状　2名，合計17名の出席．
＊前回議事録の承認

審議事項
1．理事の辞任及び後任理事選任にかかわる臨時総会開催の件（斎藤）
・石渡理事，高木理事からは辞任届が提出されている．後任予定の市川八州夫代議員，小宮　剛代議員からは事前承諾済み．
・後任が決まるまでの辞任理事の権利義務について検討し，認識共有をはかった．辞任にかかわるルールについて今後詳しく検討する必要あり．
2．運営規則の改正について（緒方）
・退会に関して，第5条の6項を追加する．
・会費滞納と除籍について，第7条4項4号の文言を修正する．
これら2つの改正案を9月理事会に提出する．
3．広島土砂災害に関する対応に関して
地質学的な知見，データ等をきちんと社会に提供するように本学会は努力することを確認した．今回の災害については，井龍会長リードで適当な会員に協力を依頼する．
4．2015年度総会開催候補日，第3回理事会の開催候補日について
総会候補日を2015年5月23日（土），第3回理事会候補日を2014年12月6日（土）にする．総会開催日は理事会にて決定する．
5．高校地学をめぐる最近の動向（廣木）
地学教育について，川辺文久理事にも参加していただき，広く議論した．本学会として地学教育にどのように貢献するか，本学会の体制をどうするか等について今後議論を継続する．地学教育委員会の再構成も今後検討する．
6．その他

報告事項
1．全体的報告（メール審議確認）
＊なお，パブリックコメントについては締め切り後に必ずその回答が公表されるので，随時チェックする．
1）「一般公開行事実施の際の警報等発令時及び地震発生時の対応指針」の策定
2）地震調査研究推進本部による「地震に関する総合的な調査観測計画について～東日本大震災を踏まえて　案」に対し，各専門部会の意見も聴取し，7/16にパブリックコメントを提出した．
3）文部科学省の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン案」に対し7/29にパブリックコメントを提出した．
4）原子力規制委員会より，「九州電力株式会社川内原子力発電所1号炉及び2号炉の発電用原子炉設置変更許可申請書に関する審査書案に対する科学的・技術的意見」募集にたいし，8月14日にパブリックコメントを提出した．
5）各県の石（岩石・鉱物・化石）に関して，一般から募集することを含めて8月11日プレスリリースを行った．会員および一般市民にアンケートを呼びかけた．毎日新聞が8/14に掲載，共同通信から問い合わせ，石材の雑誌に掲載したいとの話などがあった．本日までに　160件の応募があり，うち鹿児島県は6件であった．
6）自然史学会連合より「著しく高い生物多様性を擁する大浦湾の埋め立についての要望書」への連名の諾否について検討し，純粋に自然科学的な要望書ではあるが，生態系保護のために埋め立て反対を主張したいという論理であり，埋め立に関わる国内情勢および外交関係を勘案すると政治性が高いと判断し，連名を辞退することとした．
その後，自然史学会連合においても同要望書について再検討のうえ提出をしないことになったことが報告された．

2．運営財政部会：総務委員会（緒方）
＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
1．山陰海岸ジオパーク国際学術会議「湯村会議」（10/25－26）の後援を承諾．
2．子供のためのジオカーニバル同企画委員会より（代表者　廣木義久）より第15回子供のためのジオカーニバル（11/1－2，大阪市）の後援依頼があり，承諾した．
3．山田科学振興財団より，2014年度の研

究援助として３件推薦のうち，武藤潤会員が採択された（150万円）．研究主題「不均質岩石レオロジーを考慮した東北沖地震後の地殻変動解析」

＜その他＞

１．（公財）深田地質研究所の理事長交代挨拶：新理事長　滝口志郎

２．（公社）日本アイソトープ協会新役員の選任挨拶：理事長　有馬朗人交代なし

＜会員＞

１．今月の入会者（８名）

正会員〔５名〕：小田島庸浩，樋口明良，中野真帆，中村　徹，石原由賀

正（院割）会員〔３名〕：桐生和樹，羽田裕貴，貞包健良

２．今月の退会者（正会員　３名）外囿雄一，加藤有沙，恵口　響

３．今月の逝去者　：なし

４．2014年８月末日会員数

賛助：27　名誉：65　正会員：3820　正会員：3638　正（院割）会員：167

正（学部割）会員：15　合計 3912（昨年比 －67）

＜会計＞

８／６に運営財政部会として今年度財政状況ほかの検討を行った．

１．８／６今年度財政状況，特に旅費交通費について検討

今の状況から今年度は大幅な赤字見込み．旅費交通費の増加対策として，来年度から執行理事会の開催数，開催の仕方など，根本的な見直しも必要．

２．科研費（研究成果公開発表B）の会計上の扱いについて

これまでは普及事業として，科研費も込みで決算をしていたが，今年度からは科研費を別枠にして決算報告する．

３．来年度の雑誌代について

これまで消費税込で1700円，今年度８％に上昇時にも転嫁はしていない．2015/10に10％にアップされることも勘案し，今年度増分の３％を価格に上乗せする．上乗せの方法と時期は，巻号の切り替わる2015年１月号からとし，旧価格に３％の税を上乗せして，定価（税込）1750円とする．ただし４月～３月の継続購読の場合は３月までは旧価格とし，４月から上乗せを行う．その他少額の出版物は事務経費を考慮し現行のままとする．

４．2016国際地学オリンピック三重大会への協賛金の拠出について

現在年度協賛金として，30万円を拠出している．それを基に検討していくらの拠出が適当か？ 2015年度において事業準備引当金より拠出することについて９月理事会で議論する．

５．鹿児島大会への学術交流協定締結国からの招待者に対する対応

・宿泊は代表者以外も含め学会が負担，ただし，同伴者については各自負担．懇親会は同伴者も含め招待．

・各国1名に対し航空運賃+市内交通費（5,000円／３日間）を支給．

・国際賞受賞者（台湾）は宿泊を学会が負担し，航空運賃+市内交通費（5,000円/3日間）を支給．

・運賃はそれぞれの航空チケット購入価格に見合う日本円を支給する．

３．広報部会：広報委員会（坂口・松田）

・鹿児島大会のプレスリリースを鹿児島で実施予定．

・「地質学者に聞いてみよう」の取り扱いについては，広報と常務理事が適宜対応する．

・英文ホームページの整備を早急に進める．特に年会関係の情報を至急掲載する．

４．学術研究部会（ウォリス・竹内・中澤）

⑴ 行事委員会（竹内）

・鹿児島大会準備状況報告．巡検申し込みは概ね好調．緊急展示あり．

・2015年信州大会巡検コース案

・2017年大会開催地:愛媛が立候補，理事会に諮る．

⑵ 国際交流委員会（ウォリス）

・学術交流協定を結んだ学会の招待者：韓国２名，モンゴル１名，タイ１名，イギリス２名．

・接待，懇談等の対応についてはウォリス理事，会長ら関係者で決める．

・台湾の経済部地質調査所から「日台技術協力地質学研修」として３名の方が参加する，急きょポスター発表を行っていただき，会長とも懇談の予定．お世話は一般財団法人日本国際協力センターが行っており，鹿児島には通訳が同行する．

⑶ JIS，標準担当（中澤）

５．編集出版部会（山路・海野・保柳）

⑴ 地質学雑誌編集委員会（山路）

１）編集状況報告（８月27日現在）．

・2014年投稿論文　総数53編［総説４（和文４）・論説27（和文27）・ノート１（和文１）・報告　６（和文５・英文１）・口絵６（和文４・英文２）・巡検案内９］

・査読中　22編　受理済み　５編（うち特集号５）

・120巻８月号：論説２・ノート１・口絵１（約35頁，印刷中，９／１発送予定）

・120巻９月号：総説１・論説２・口絵１（約37頁，入稿中）

⑵ アイランドアーク編集委員会（海野）

・編集状況報告

・９月理事会で現在の状況をまとめて編集長の海野理事から報告してもらう．

⑶ 企画出版委員会（保柳）

・箱根たんけんマップの第２刷を2000部印刷．

６．社会貢献部会（平田・杉田・廣木）

・秋季地質調査研修の共催依頼を産総研に提出した．

・第４回地質の日イベント（関東支部と応用地質学会）は平成27年５月10日（日）に等々力渓谷で実施予定．

７．ジオパーク支援委員会（天野・平田）

・８/28，日本ジオパーク委員会が開催され，以下のように決定した．

・世界ジオパークネットワークへの新規加盟推薦２地域決定：アポイ岳，伊豆半島．

・日本ジオパークネットワークに新規加盟３地域決定，現在の加盟は36地域となった．立山黒部（富山），南紀熊野（和歌山），天草（熊本）．

８．地学オリンピック支援委員会（平田）

９．連携事業委員会

10．支部長連絡会議（渡部）

鹿児島で支部長会議を開催する．

11．地質災害委員会（斎藤）

・委員の更新作業中．９月理事会に案を提出予定．

・広島市の土石流災害については，産総研ホームページをリンク．

12．地質技術者教育委員会（山本）

・CPDについて，大会と巡検参加者の希望者には年会会場で発行する．

2014年９月12日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会長（代表理事）　井龍康文

署名人　執行理事　斎藤　眞

2014年度
第４回執行理事会議事録

期　日：2014年９月12日（金）13:00－14:30

場　所：宝山ホール　第５会議室

出席者：井龍会長　山本副会長　渡部副会長　齋藤常務理事　ウォリス　海野　緒方　坂口　杉田　竹内　中澤　平田　廣木　星　保柳　松田　榊原理事会議長

（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：山路

＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者16名，委任状　１名，合計17名の出席．

＊前回議事録の承認

審議事項

１．鹿児島県の石の選定について→理事会審議へ

１）鹿児島県の「県の石」を執行理事会MLで議論し，執行理事会案を決定した．それを理事会にはかる．

県の岩石：シラス（主に入戸火砕流堆積物）

県の鉱物・鉱石：菱刈金山の金鉱石（自然金）

県の化石：甑島・獅子島の白亜紀動物化石群

2）他の都道府県については，理事会で今後の選定体制を検討する．

2．理事会議案確認

報告事項

1．全体的報告（メール審議確認）
特になし

2．運営財政部会：総務委員会（緒方）
・土木学会100周年記念式典・祝賀会(11/21)の招待状→山本副会長出席予定
・千葉県
＜会員＞
1．今月の入会者（1名）　正会員（院割1名〕：今野悠紀
2．今月の退会者：なし
3．今月の逝去者：なし

3．広報部会：広報委員会（坂口・松田）
・年会行事について，文部科学省および鹿児島県庁の記者クラブにプレスリリースした．
鹿児島県の「県の石」のプレスリリースは理事会で決定次第行う．

4．学術研究部会（ウォリス・竹内・中澤）
(1) 行事委員会（竹内）
・鹿児島大会の状況について
(2) 国際交流委員会（ウォリス）
・海外招待者（外国の学会の代表者，津波シンポ関係者）のお世話について
5．編集出版部会（山路・海野・保柳）
(1) アイランドアーク編集委員会（海野）
・編集状況報告
(2) 企画出版委員会（保柳）
・地方地質誌の刊行状況について，朝倉書店から報告があった．
現在四国と東北が未刊行，四国地方の原稿がそろい編集中で来年の大会までには刊行，東北地方もあと2～3月で原稿がまとまる予定．

6．社会貢献部会（平田・杉田・廣木）
・秋季地質調査研修の募集開始．現在2名の応募あり．

7．ジオパーク支援委員会（天野・平田）
8/28に日本ジオパーク委員会が開催され，以下のように決定した．
・2014年度世界ジオパークネットワークへ2地域を推薦決定：アポイ岳ジオパーク，伊豆半島ジオパーク．今年の冬に申請書を提出後，来年度のGGN視察を受けて，来年秋に可否が決定する予定．
・阿蘇ジオパークの世界ジオパークネットワーク（GGN）加盟について：今月19-22日にカナダで開催されるジオパーク国際ユネスコ会議で，今年視察の結果も踏まえてGGN加盟の可否が決定される．
・2014年度日本ジオパークネットワークに新規加盟3地域決定：立山黒部ジオパーク，南紀熊野ジオパーク，天草ジオパーク．なお，天草ジオパークは天草御所浦ジオパークを拡大したので，天草ジオパークは年内に発展的に解消する予定．その結果，国内の日本ジオパークは世界を含めて35地域となる．

8．支部長連絡会議（渡部）
9月13日開催予定．地質災害発生時の対応，県の石などを話題にする予定．

8．地質災害委員会（斎藤）
・地質災害委員会の人事と今後の方針について

2014年10月11日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長（代表理事）　井龍康文
署名人　執行理事　斎藤　眞

訃　報

次の方が逝去されました．謹んで哀悼の意を表します．

名誉会員　首藤次男（10月6日）

CALENDAR

2014.10〜

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は，日本地質学会行事．

2014年

10月　October

○東京地学協会第287回地学クラブ講演会
10月３日（金）16:00〜17:30
場所：地学会館講堂
小原泰彦（海上保安庁）「海洋底科学と海底地形名」
http://www.geog.or.jp/

★関東支部：富士山巡検
10月４日（土）〜５日（日），１泊２日
http://kanto.geosociety.jp/

★北海道支部2014年日高巡検
10月４日（土）〜５日（日）雨天決行
テーマ「日高変成帯北部〜神居古潭帯の横断」

○2014地球環境保護土壌・地下水浄化技術展
日本地質学会　協賛
10月15日（水）〜17日（金）10:00〜17:00
場所：東京ビッグサイト　西ホール
http://www.sgrte.jp/sgr/

★関東支部ショートコース『地すべり破砕帯の構造地質学』
10月18日（土）10:00〜16:40
場所：帝京平成大学中野キャンパス
http://kanto.geosociety.jp/

○IGCP589「アジアにおけるテチス区の発達」第３回国際シンポジウム
プレ巡検：10月19〜20日
シンポジウム：10月21〜22日
ポスト巡検：10月23〜26日
開催場所：テヘラン，Hoveizehホテル
http://igcp589.cags.ac.cn/Symposia.htm

○GSA 2014
10月19日（日）〜22日（水）
場所：カナダ，バンクーバー
http://community.geosociety.org/gsa2014/home/

○東京地学協会秋季特別公開講演会「今時の恐竜事情」
10月25日(土)　14:00〜17:00
場所：弘済会館（東京）
冨田幸光（国立科学博）「恐竜学の最近の進歩」（仮題）
東　洋一（福井県恐竜博特別館長）「日本の恐竜化石について」（仮題）
http://www.geog.or.jp/

○山陰海岸ジオパーク国際学術会議「湯村会議」
日本地質学会　後援
10月25日（土）・26日（日）
会場：兵庫県美方郡新温泉町湯
http://sanin-geo.jp

11月　November

★関東支部：ミニ巡検「西伊豆巡検」
11月８日（土）〜９日（日）
案内者：狩野謙一ほか
申込締切：10月23日（木）
http://kanto.geosociety.jp

○第25回地質汚染調査浄化技術研修会技術研修会
11月21日（金）〜23日（日）
会場：NPO日本地質汚染審査機構本部（千葉市花見川区）
http://www.npo-geopol.or.jp/sympo.htm

○第30回ゼオライト研究発表会
日本地質学会ほか協賛
11月26日（水）〜27日（木）
場所：タワーホール船堀（東京都江戸川区船堀４-１-１）
予稿原稿締切：10月24日（金）
http://www.jaz-online.org/

○第24回環境地質学シンポジウム
11月28日（金）〜29日（土）
場所：日本大学文理学部８号館１階レクチャーホール
発表登録申込：10月18日（土）まで
原稿登録締切：11月５日（水）必着
http://www.jspmug.org/

○東京地学協会国内見学会
「榛名山ジオツアー・日本のポンペイを訪ねて」（１泊２日）
11月29日（土）〜30日（日）
http://www.geog.or.jp/

12月　December

○東京地学協会第288回地学クラブ講演会
12月19日（金）16:00〜17:30
場所：アルカディア市ヶ谷
藤田勝代（深田研）「ジオ鉄マップとは？その事例研究」（仮）
http://www.geog.or.jp/

○地質学史懇話会のお知らせ
12月23日（火・祝）13:30-17:00
場所：北とぴあ８階　806号室
財部香枝：スミソニアン気象観測法プロジェクトと博物学研究との関わり
小野田　滋：廣田孝一とその足跡－鉄道から電力へ－

2015年

3月　March

○第４回学生のヒマラヤ野外実習ツアー
日本地質学会　推薦
2015年３月上旬出発（15日間）
参加申込締切：2014年11月30日
定員：20名
http://www.geocities.jp/gondwanainst/geotours/Studentfieldex_index.htm

4月　April

○北極科学サミット週間2015
４月23日（木）〜30日（木）
会場：富山国際会議場
http://krs.bz/scj/c?c=98&m=21728&v=30edcf72

7月　July

○第13回微量元素の生物地球化学に関する国際会議
日本地質学会　後援
７月12日（日）〜16日（木）
場所：福岡国際会議場
要旨締切：2014年12月18日（木）
http://www.icobte2015.org/index.html

○第19回国際第四紀学連合大会（INQUA 2015）
日本地質学会　共催
７月27日（月）〜８月２日（日）
会場：名古屋国際会議場
http://inqua2015.jp/

9月　September

★日本地質学会第122年学術大会
９月11日（金）〜13日（日）
巡検：14日（月）〜15日（火）
場所：信州大学工学部（長野市若里キャンパス）ほか

出 版 物 在 庫 案 内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，2冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください．
現金書留または郵便振替　00140－8－28067
40号以前の論集については，一部在庫がございます．院生・学生4割引，正会員2割引で販売しております．ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい．No. 40以降の論集：院生・学生のみ2割引

地 質 学 論 集

第40号　中央構造線のネオテクトニクス―その意義と問題点―．岡田篤正ほか編，250pp., 1992年12月刊，会員頒価3,200円，〒350円
第41号　中部九州後期新生代の地溝．長谷義隆ほか編，192pp., 1993年6月刊，会員頒価3,100円，〒300円　**※これまで売り切れとなっていましたが，在庫が確認されましたので，再度販売を開始いたします．(2014.10.1)**
第42号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357pp., 1993年4月刊，会員頒価3,100円，〒350円
第43号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177pp., 1994年4月刊，会員頒価2,000円，〒350円
第44号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335pp., 1995年11月刊，会員頒価2,800円，〒350円
第45号　~~シーケンス層序学―新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，~~**(売り切れました)**
第46号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162pp., 1996年9月刊，会員頒価 1,900円，〒300円
第47号　日高地殻―マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323pp., 1997年4月刊，会員頒価3,000円，〒350円
第48号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia (IGCP350) Contributions from Japan―　岡田博有ほか編，188pp.，1997年6月刊，会員頒価 2,100円，〒350円
第49号　21世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232pp.，1998年3月刊，会員頒価 2,500円，〒350円
第50号　構造地質　特別号―21世紀の構造地質学にむけて―．狩野謙一ほか編，263pp.，1998年7月刊，会員頒価2,500円，〒350円
第51号　地震と地盤災害―1995年兵庫県南部地震の教訓―．岡田博有ほか編，162pp.，1998年3月刊，会員頒価3,000円，〒350円
第52号　オフィオライトと付加体テクトニクス．宮下純夫ほか編，316pp.，カラー 10pp.，1999年9月刊，会員頒価3,000円，〒350円
第53号　本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム．加々美寛雄ほか編，401pp.，1999年11月刊，会員頒価3,900円，〒360円
第54号　タフォノミーと堆積過程―化石層からの情報解読―小笠原憲四郎ほか編，197pp.，1999年12月刊，会員頒価2,900円，〒350円
第55号　~~ジュラ紀付加体の起源と形成過程．木村克己ほか編，~~**(売り切れました)**
第56号　古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程．高木秀雄ほか編，253pp., 2000年3月刊，会員頒価2,900円，〒350円
第57号　砕屑岩組成と堆積・造構環境．公文富士夫ほか編，240pp., 2000年9月刊，会員頒価2,800円，〒350円
第58号　地震イベント堆積物―深海底から陸上までのコネクション―藤原　治ほか編，169pp., 2004年12月刊，会員頒価2,900円，〒350円　**※これまで売り切れとなっていましたが，在庫が確認されましたので，再度販売を開始いたします．(2014.4.7)**
第59号　沖積層研究の新展開　井内美郎ほか編，212pp.，2006年5月刊，会員頒価2,400円，〒350円

リーフレットシリーズ
大地の動きを知ろう―地震・活断層・地震災害―　1995年4月発行　会員頒価200円（非会員300円）
大地のいたみを感じよう―地質汚染Geo－Pollutions 1997年2月発行　会員頒価200円（非会員300円）
大地をめぐる水―水環境と地質環境―　2001年5月発行　会員頒価300円（非会員400円）
日本列島と地質環境の長期安定性　2011年発行　会員頒価500円（非会員600円）

地質リーフレットたんけんシリーズ**（同一リーフレットを20部以上購入の場合割引あり）**
1．箱根火山たんけんマップ―今、生きている火山　2007年5月発行　会員頒価300円
2．屋久島地質たんけんマップ―洋上アルプスは不思議な地質がいっぱい―　2009年3月発行　会員頒価300円
3．城ヶ島たんけんマップ―深海から生まれた城ヶ島―　2010年9月発行　会員頒価300円
4．富士山青木ヶ原溶岩のたんけん―樹海にかくされた溶岩の不思議―　2014年3月発行　会員頒価300円

地質リーフレットシリーズ
1．箱根火山　2007年7月発行　会員価格1,000円**（同一リーフレットを20部以上購入の場合割引あり）**

下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）1枚200円（非会員300円）

電子書籍シリーズ
地学を楽しく！：ジオパーク・ジオツアー・地学オリンピック　2013年12月発行　［Kindle版/PDF版］　定価1,380円

講演要旨集ほか
第118年見学旅行案内書（2011年水戸）　会員頒価2,800円，〒500円
第117年学術大会講演要旨（2010年富山）　会員頒価4,000円，〒500円
第117年見学旅行案内書（2010年富山）　会員頒価2,800円，〒500円
第116年見学旅行案内書（2009年岡山）　会員頒価2,800円，〒500円
第115年見学旅行案内書（2008年秋田）　会員頒価2,500円，〒500円
※このほか，大会講演要旨は，2002年新潟，2003年静岡，2004年千葉，2006年高知，2007年札幌，見学旅行案内書は，2004年千葉，2005年京都に残部があります．

フィールドノート：学会オリジナル．12×19cm．ハードカバー．レインガード使用　会員頒価1冊500円．

（金融機関用）　　平成　　年　　月　　日

預金口座振替依頼書
自動払込利用申込書（収加）

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社	振替日	6日・23日（金融機関休業日の場合は翌営業日）

（フリガナ） 申込人名		申込人住所	〒 ☎

ゆうちょ銀行以外の銀行またはゆうちょ銀行のどちらか一方に記入して下さい。

ゆうちょ銀行以外の銀行

金融機関コード		支店コード		預金種目（どちらかに○印）	口座番号（右詰めでご記入ください。）
銀行 信用金庫 組合		本店 支店 出張所		1. 普通 2. 当座	
（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。			金融機関お届け印	印

捨印（ゆうちょ銀行を除く）

ゆうちょ銀行

（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、ゆうちょ銀行へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	ゆうちょ銀行お届け印	印

種目コード	契約種別コード	通帳記号		通帳番号（右詰めでご記入ください。）
166	30	1　　0	の	

払込先口座番号	00110－5－58830	払込先加入者名	SMBCファイナンスサービス株式会社

ご注意！ 金融機関へのお届け印ですか

〈収納企業使用欄〉

収納企業名	一般社団法人 日本地質学会	料金等の種類	会費等
契約者番号	委託者コード 18476000	顧客コード 00000	

一預金口座振替規定一　※ゆうちょ銀行払いは除く。

1. 銀行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額（当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。）をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
3. この契約を解約するときは、私から銀行（金庫・組合）に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行（金庫・組合）はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
4. この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行（金庫・組合）の責めによる場合を除き、銀行（金庫・組合）には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

金融機関使用欄	（不備返却事由） 1.預金（貯金）取引なし　3.印鑑相違 2.記載事項等相違 店名、預金種目、口座番号、通帳記号、通帳番号、口座名義 4.その他（　　） 備考		
	検印	印鑑照合	受付印

取扱店日時　印

（金融機関へのお願い）
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

（不備返却先）
SMBCファイナンスサービス㈱決済ビジネス事務部
〒108-6350 東京都港区三田3-5-27 ☎03-5444-1533

◎書類の流れ　お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

裏面のりしろ①

キリトリ線

82円
切手
貼付

101-0032

東京都千代田区岩本町
二丁目八―一五　井桁ビル内
一般社団法人日本地質学会
御中

オリ線

住所
氏名

オリ線

裏面のりしろ③

キリトリ線

裏面のりしろ②

広告募集

ニュース誌に広告を掲載しませんか？

ニュース誌の掲載広告を募集しています．学会直接取り扱いになりますので、カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます．是非ご利用ください！

	価格（白黒）	版下作成	カラー印刷
表4	60,000	+10,000	+10,000
表2	50,000	+10,000	---
表3	40,000	+10,000	---
本文頁	35,000	+5,000	---

（単位：円）

【お得な割引価格も設定しています！！】

掲載位置・サイズにかかわらず，
4回掲載一括注文：10％割引
6回掲載一括注文：15％割引
※一年度内（4〜3月）もしくは一巻内（1〜12月号）で一括注文頂いた場合に限ります．

申込・問い合わせ：一般社団法人日本地質学会 事務局
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156
e-mail: main@geosociety.jp

広報誌ジオルジュ　一括割引購入のご案内

日本地質学会では広報誌「ジオルジュ」を発行しています（年2回発行．定価250円）．

博物館・学校・研究機関などで，イベントでの配布物，友の会へのプレミアグッズ，ストアなどでの販売物として，ジオルジュを利用してみませんか．部数に応じて割引価格を設定しておりますので，是非ご検討下さい．

【割引価格例】
100部：20,000円（定価2割引）
300部：52,500円（定価3割引）
これ以外についてもご希望に応じてご相談承ります．

毎号各地のジオパークの特集記事の掲載も企画しています．ジオパークの広報の一環としてもご活用ください．

最新号（2014後期号）まもなく発行！

申込・問い合わせ：一般社団法人　日本地質学会
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156　e-mail: main@geosociety.jp

地質リーフレット 4

日本列島と地質環境の長期安定性

地質環境の長期的利用の観点から、日本の地質環境を分かりやすくまとめたリーフレット。
最新のデータに基づき、日本列島の断層運動、火山・マグマ活動等の特徴、そして将来予測の考え方を示しています。
多くの方々に活用して頂けることを願っています。

編集　一般社団法人日本地質学会　地質環境の長期安定性研究委員会
発行　一般社団法人日本地質学会
2011年1月発行　B2版　両面フルカラー

定価600円（会員頒価500円）
（20部以上の場合割引あり）

購入希望の方は、学会事務局まで。
e-mail: main@geosociety.jp
電話 03-5823-1150

そのほかの地質リーフレットシリーズも好評発売中！

1. 大地の動きを知ろう—地震・活断層・地震災害—
2. 大地のいたみを感じよう—地質汚染Geo-Pollutions
3. 大地をめぐる水—水環境と地質環境—

©一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp